

当別町道の駅基本構想

平成26年3月



当別町

目次

I	基本構想の方向性	1
1	基本構想の目的	2
1-1	構想の目的と背景	2
1-2	道の駅登録の方向性と事例	5
2	事業内容の検討	6
2-1	導入機能の検討	6
2-2	町内主要施設などとの連携	10
3	運営方法及び運営管理体制の検討	12
3-1	運営方法及び運営・管理体制づくり	12
II	施設整備計画イメージ	15
1	施設整備の方針	16
2	施設規模と配置計画	20
III	これからの進め方	23
1	開業までの取り組み	24
1-1	今後の作業工程	24
1-2	今後の取り組み	25
2	具体化に向けての課題	26
	資料編	
1	当別町の概況	30
1-1	人口・産業	30
1-2	まちづくりと観光入込実態	33
2	マーケティング調査と事例調査	35
2-1	利用者ニーズの把握	35
2-2	商圈人口分析	45
2-3	周辺市町村との往来交通量	46

I 基本構想の方向性

1 基本構想の目的

1-1 構想の目的と背景

当別町は、札幌大橋の開通を契機に大都市「札幌市」とのアクセスが飛躍的に向上したことにより、宅地開発が進行し、平成2年から平成7年にかけて人口が著しく増加しました。

しかし、その後の増加傾向は緩やかになり、少子高齢社会の到来、経済の低迷などにより、本町の人口は、平成11年度の20,875人をピークに17,835人（平成25年4月1日現在）まで減少しています。

町民の消費行動では、札幌市周辺の都市近郊型ショッピングセンターなどの進出により、衣料品や家庭用電化製品、日用品から食料品にいたるまでの購買が町外へと流失し、町内商業者の経営に大きな影を落としています。

このような状況を受けて、第5次総合計画では『発信力』を掲げ、『地域ブランドの創出などによる、まちの新しい魅力を都市に向けPRすることに努めながら、農村と都市の文化・経済を融合させるまちづくりをめざす』ことを基本理念として盛り込みました。

このような中、農村と都市を結ぶ国道337号の整備は着実に進み、完成後の本町へのアクセスの向上は、札幌大橋開通以来の期待がされる一方、その沿線に観光施設、商業施設などのランドマーク的施設がなく、町が通過点的な存在になることが懸念されます。

この現状を改善し、国道整備を本町のチャンスと捉え、国道337号沿線に、農産物・特産品などの販売に加え、地域の様々な情報の発信拠点となる（仮称）当別町インフォメーションセンターを設置し、多くの人を呼び込み、農村と都市の交流人口の拡大、農産物販売を通じた農業の振興、町内での購買の促進など、経済活動の活発化を目指すことが重要です。

本構想書は、当別町内の地域資源を集約し、道央圏をはじめ、道内外の観光客に向け情報を発信する『人を呼び込む施設』の設置に向け、その基本的な方向性を示すもので、今後の施設建設や、運営の具体的な課題やプロセスの整理を目的として作成したものです。

当別町道の駅基本構想

当別町の抱える課題解消に向け『人を呼び込む』ことを念頭に、施設機能をイメージすると次のとおりとなります。

また、施設の設置に向けては、消費者ニーズを的確に把握した上で、町のアピールポイントを整理し、交通量の増大を絶好の機会と認識し、当別町の認知度アップ、交流人口の拡大、経済活動の活発化を目指すことが必要となります。

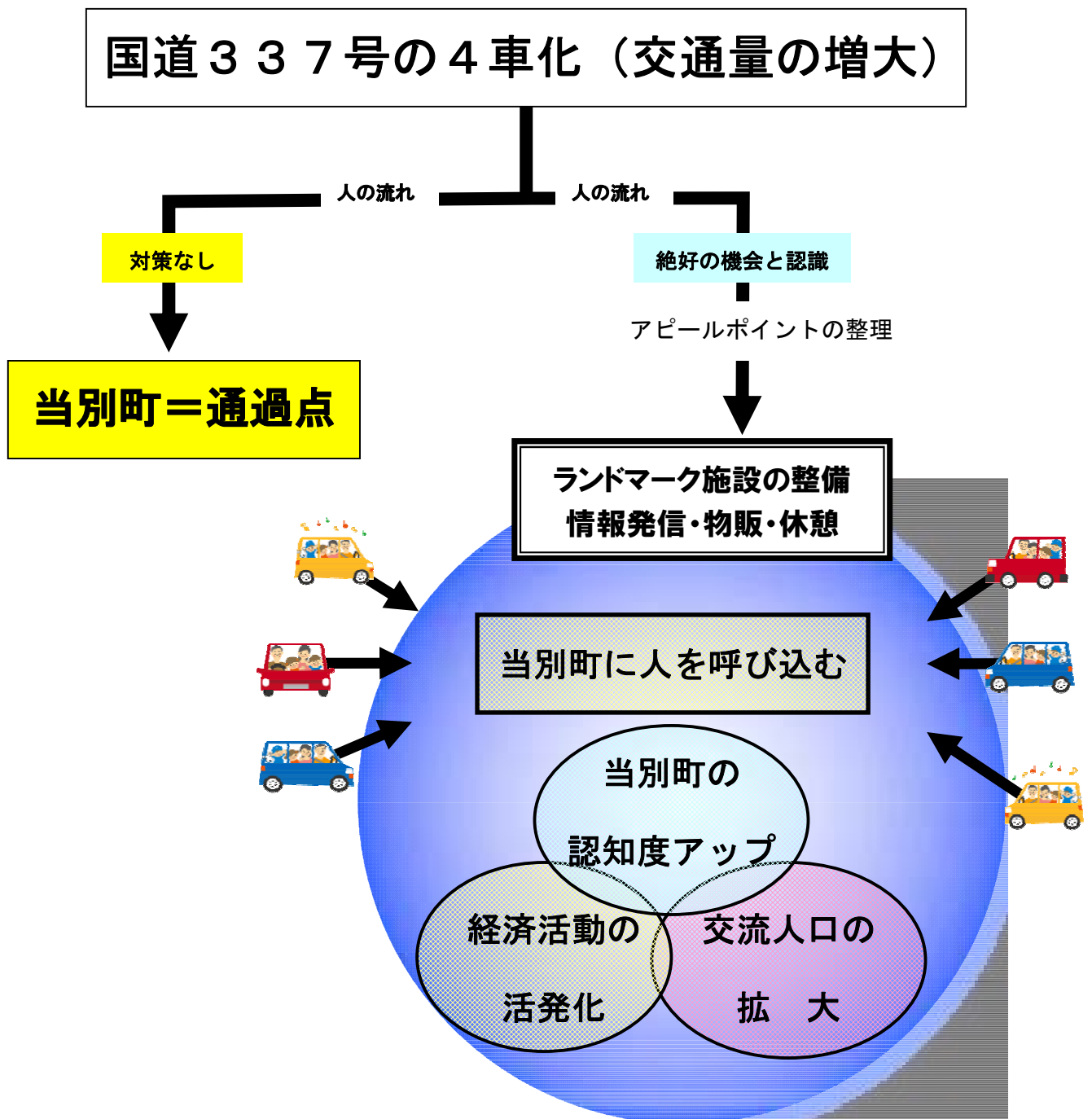


図2 施設設置の目的（イメージ）

1-2 道の駅登録の方向性と事例

道の駅の登録数は、平成25年3月現在で1,004駅であり、今後も登録数の増加が見込まれています。

北海道開発局の報道発表によれば、2012年度の道内「道の駅」で268億円の経済波及効果と2,900人の雇用効果があったとされ、地域経済に与える道の駅の効果は大きいと言えます。

また、下表のように、既存の施設が「道の駅」への登録により、来場者数・売上ともに増加した例も報告されています。

道の駅の利用者数は、過去5年間で18%増加し、道内のスタンプラリーの全駅完走者も年間2千人となるなど、道の駅自体が観光地となる例も増えています。

「道の駅」の登録を受けるメリットは、地図情報や道の駅のホームページ等の情報支援や整備に係る補助金等の財政的支援、そして、道の駅と言うネームバリューを活用し、本町自体の知名度をアップさせる効果が期待できます。

また、道の駅の機能の一つである直販機能を踏まえ、地域産業を活用した内発的な活性化への期待、さらには、地場産品の販売拠点等の確保につながることも、メリットと考えられます。

一方、デメリットとしては、トイレ・駐車場などの通年（24時間・365日）開設が必要となるため、維持管理費の増加、また、コンビニを含めた類似施設との競合が想定されます。このため、より高度なサービスの提供を持続させ、立寄り率及び購買率を確保し、採算性を図る運営を行うことが課題となります。

このような状況を総合的に勘案した結果、多くの人を呼び込むことを目的としている（仮称）当別町インフォメーションセンターについても、道の駅への登録に向け、検討を進めることが最重要と考えます。このため、これまでの（仮称）当別町インフォメーションセンターの名称をこれ以降は当別町道の駅と表記します。

表1 道の駅登録による来場者等の変化（国土交通省 東北地方整備局郡山国道事務所調べ）

施設名	施設開設	来場者数(人) 売上(万円) ①	道の駅登録	来場者数(人) 売上(万円) ②	対 比 ③=②-①
尾瀬街道みしま宿 (福島県)	H14.4	22,500 680	H18.8	34,200 912	11,700(1.5倍) 232(1.3倍)
たまかわ (福島県)	H8.5	9,600 1,366	H18.8	10,500 1,804	900(1.1倍) 232(1.3倍)

*登録前後の8~9月の1ヶ月で比較

2 事業内容の検討

2-1 導入機能の検討

本町の地域資源・特徴を活かしつつ、施設に求められる機能を、以下のとおり抽出しました。

(1) 直販機能



来訪者に、当別町の魅力を伝えながら、地域の産業振興につながる機能の整備を検討します。

○地元農産物をはじめとして、ジンギスカン、SPF豚、黒毛和牛等の肉類、とうべつブランデリなどの加工品、花卉や苗などの販売・直売

○地元食材を使ったレストラン（調理体験できる）

- ・ 地元飲食店による軽食の提供（イートイン）
- ・ 地元農産物を使った、寛げるファームレストラン
- ・ 地元素材を使った調理教室（カルチャー教室）など

○米、麦、大豆などの地元農産物を利用する加工場

○石焼のピザ、パンや亜麻を使ったソフトクリームなど、地元素材による加工品販売

○トマト、とうきび、アスパラなどもぎ取りによる農業体験

○フラワー迷路



(2) 情報発信機能



道路・観光、町内情報の提供

施設に立ち寄った来訪者が、周辺の道路情報だけでなく当別町とその周辺の観光・イベント、旬の農業情報や企業の情報などを入手でき、周遊を促すような情報の提供を検討します。

○主要国道 337 号、275 号はじめ、周辺道路の交通情報、安全情報を随時提供

○町内と周辺施設の観光施設情報の提供

○姉妹都市情報コーナーと姉妹都市（レクサンド市含む）の物産販売など

○ロイズによる体験博物館やロイズ商品を中核とした展開

(3) 休憩機能



道路利用者の休憩機能

道路利用者が、目的地への途中に安心して立ち寄り、寛ぎ楽しむことができる休憩施設を検討します。

- 24時間対応できる、きれいで快適なトイレ
- 大型バス用（トラック）に対応する大きな駐車場とコンビニ機能
- キャンピングカー対応の（泊まることができる）設備やコインランドリー
- 温泉水を利用した足湯
- 母親に配慮したスペース（授乳室など）
- 子供が飽きないプレイルームやアトラクション

(4) 防災機能



吹雪など、急な天候の変化や自然災害時に安心して退避できる機能整備を検討します。

- 豪雪地帯であり、天候の変化が激しい本町を、安心して運転できる吹雪時の退避機能をはじめ、緊急時に防災の視点から役立つ機能の整備

(5) その他



施設を効率的かつ有効に機能させるための事項

- ランニングコストを軽減し、環境に配慮したエネルギーの利活用
 - ・ 冬季間の降雪を、野菜などの低温貯蔵に利用
- ふれバの停留所
- 国道利用者を引き付け、立ち止まってもらうための大きな看板

施設の機能を検討するうえで、社会的時代のニーズから、以下の視点が代表的なものとして考えられる。

[再生可能エネルギー、環境に向けた検討]

地球規模で温暖化防止の機運が高まり、これまでの化石燃料の利用や、東日本大震災による福島原発の事故後、原子力に偏らない幅広い再生可能エネルギーへの転換の声が高まっている。

本町は、町民の足となる地域交通「当別ふれあいバス」の運行において、バイオディーゼル燃料を利用するなど、CO₂削減の取り組みを先進的に行い、エネルギーと環境保全の調和に向けての高い評価を受けている実績がある。

①雪氷熱エネルギー

気候的に本町は、特別豪雪地帯であり、年間降雪量が8mを超えることも珍しくない。このことは交通路の遮断をはじめ、住民生活においても大きな負担となっている一方、近年は雪が持つ冷熱をエネルギーとして利用することが注目されている。

また、米や野菜などの農産物は、一定の低温で貯蔵することにより長期保存が可能となったり、糖度が増すことも知られている。

冬季間に排雪に出される膨大な雪氷を、雪堆積場や倉庫にストックし、夏場の施設の冷房や、農産物の品質管理、付加価値の向上につなげることができれば、地球環境対策ともマッチする可能性を持っている。

道内では美唄市、ニセコ町などが農業用貯蔵施設として稼働しており、大手コンビニエンスストアも企業イメージの向上と、ランニングコストの軽減を目指して実験的に導入を始めている。



雪氷熱エネルギー利用の例

②太陽光ソーラーパネル

屋根などに設置した太陽電池により、太陽の光のエネルギーを電気に変えるクリーンエネルギー。

メンテナンスが簡単で、太陽が照る場所であれば全国どこでも発電可能で電気を使う場所で直接発電できるため、送電設備のない遠隔地でも活用できる。北海道での一般住宅用での太陽光発電システムの普及率は1.3% (2013年3月末 一般社団法人新エネルギー導入促進協議会調べ) と全国平均の4.6%より低く、冬期間の積雪や北海道独特の屋根形状との関係が影響していると考えられている。しかしながら、



ソーラーパネル設置の例

災害時には非常用発電になることは施設にとっては大きな魅力であり、発電した電氣量が使用した電氣量より多いときは、余った電氣を電力会社に買い取ってもらうことができるためランニングコストの軽減が期待できる。

③地中熱

本町には2箇所の温泉施設があり、場所によってはボーリングによって地中から一定温度の水が採取できる。太美地区では古くから庭に水を引き込み、融雪に利用していた家庭もある。地中から採取する一定の地下水温を利用した施設の暖房や、冬季間におけるの農産物栽培も検討できる。

④EV（電気自動車）充電器の設置

今後普及が予想される電気自動車の充電インフラとして、電欠防止のためEV充電器の設置も検討の必要がある。

経済産業省による「次世代自動車充電インフラ整備促進事業」のほか、国内自動車メーカーによる普及促進のための支援事業を利用し、札幌圏のユーザーが安心してドライブ、道の駅での買い物など、利便性を高めることができる。

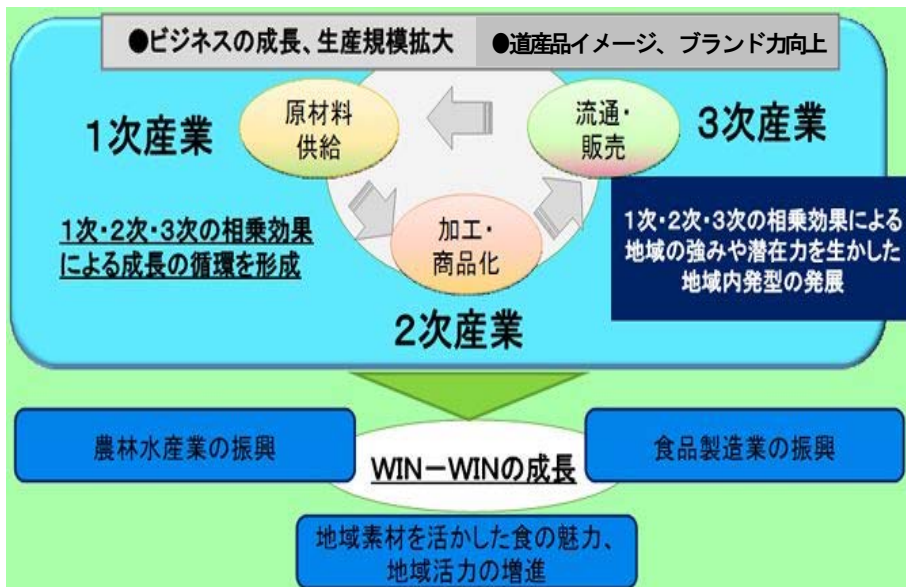


普及充電器の一例

[六次産業化への動き]

第一次産業である農林水産業が、農林水産物の生産だけにとどまらず、それを原材料とした加工食品の製造・販売や観光農園のような地域資源を生かしたサービスなど、第二次産業や第三次産業にまで踏み込む六次産業化が注目されている。

このような考えは、各地で実践を伴いながら広まりつつあり、農業経営などが多角化する



だけでなく、商工業の事業者と連携する動きもある。道の駅は、農産物の販売だけにとどまらず、農産物の加工により農産物の付加価値を高め、農家の所得を向上させるとともに、農業者と商工業者との橋渡しの場所としての利用が考えられる。

2-1 町内主要施設などとの連携

道の駅を通じ、訪問意欲度が高い『温泉（ふとみ銘泉・中小屋温泉）』『道民の森』・『直売所（ふれあい倉庫・つじの蔵・はなポッケ）』などの施設へと誘導し、さらに他施設へと拡げる連携システムの構築を目指します。



- ★ 商工会・農協・観光協会 ※ロイズコンフェクトなどの企業との運営・事業化の連携
- ★ 町内施設の旬な情報を集約し、随時発信
- ★ 特典を付与して町内経済と連携、相乗効果を高める

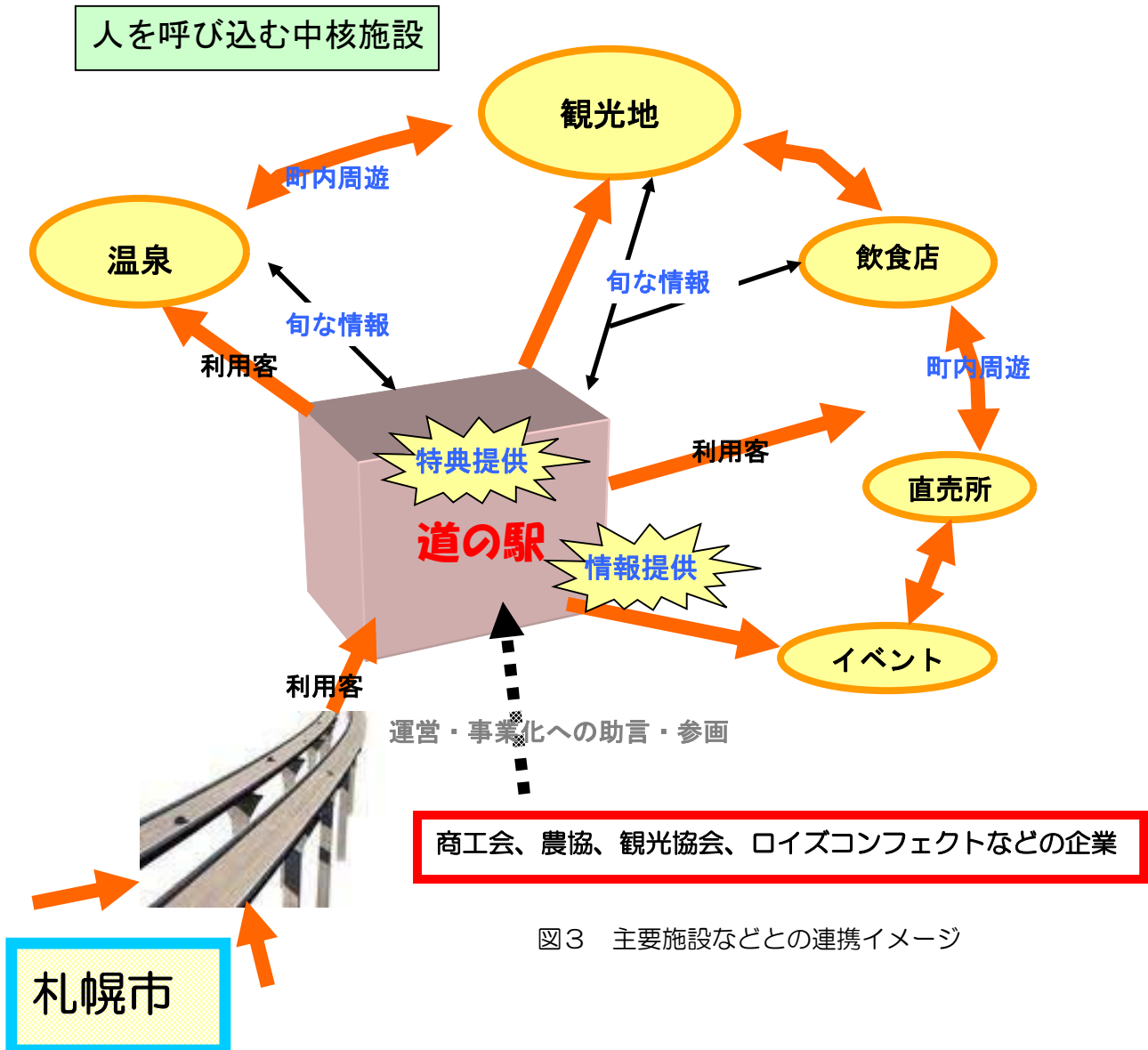


図3 主要施設などとの連携イメージ

連携手法（イメージ）

①地域の多様な主体と連携した「幅広の情報発信」と「人・企業・場の活用」

農家や事業者と連携するためには、商工会や農協、観光協会などとの運営・事業化等における連携も必要となる。

また、本町に工場を有する有名企業「ロイズコンフェクト」などの企業と、運営・事業化に向けた連携を図ることにより、道の駅がより大きく発展する可能性を持っており、これら地域の「人・企業」との連携を通じ、道の駅の「場」を、さらに活性化させる仕組みづくりが重要である。

②町内主要施設（温泉・道民の森）と連携して「特典の提供」による周遊促進

町内の施設や飲食店などで特典サービスが受けられるクーポン等を道の駅で配布し、特典サービスを施設や飲食店などで提供する。また、町内の施設を利用した証明（レシートなど）の提示によって、道の駅で特典が受けられるようにする。例えば、「道の駅のソフトクリームが50円引き」などが挙げられる。

③農家と連携「旬な情報」の的確な発信（直売所）

町内農家と連携し、直売所等における旬の情報、収穫情報、調理方法などの情報を道の駅で発信する。

例えば、収穫状況の写真を道の駅に送信、本日の新鮮野菜などとして道の駅のホームページに掲載することが考えられ、毎日の情報更新が重要なポイントとなる。

④「他のイベント」と連携した町のPR

当別町を舞台に、JR ヘルシーウォーキングやウォーキングラリーが開催されている。これらのイベントを道の駅から広く発信し、さらにイベント時に道の駅を会場などに利用してもらうよう働きかけることも必要である。また、札幌市で毎年開催されているオータムフェストなど、町外のイベントも大いに活用する。

※ ロイズコンフェクト……1983年創業、1999年当別町に「ふと美工場」を開設し、「品質」「個性」「価格」にこだわった商品を販売。現在はアジアを中心に海外へも出店するなど、世界を視野にチョコレート、クッキーの製造、販売を展開する北海道を代表する企業。

3 運営方法及び運営管理体制の検討

3-1 運営方法及び運営・管理体制づくり

道の駅の効果的な運営・管理体制づくりに向けて、次のとおり整理しました。

① 企業経営的な視点の導入（管理主体）

事業を進めるにあたっては、先見性のある経営感覚と柔軟で実践的な経営手腕が必要となります。収益を確保する体制づくりとして、民間活力の積極的導入などが考えられます。

② 地元住民参加による体制づくり（運営主体）

運営主体の確立に向けては、常に多くの人を呼び込むためにも、多種多様なイベントなどの取り組みが必要となるため、地元住民などの協力が欠かせません。このため、行政と住民、地元団体が一体となった検討体制（「道の駅プロジェクトチーム」）を立ち上げる必要があります。

③ 行政の立場

行政は、運営・管理に必要な支援・調整・指導を行います。

以上の3つのことに加え、

これまで長く続いた景気の停滞などにより、国や地方自治体を取り巻く行財政環境は厳しく、回復には時間を要します。

当該施設の運営は公共性の高い事業であると同時に地域の振興、経済的発展を目指し、さらにその事業の採算性を確保するうえにおいても

- (1) 効率性の確保
- (2) サービスの充実
- (3) 民間経営ノウハウの導入

の3点を重要と考え、道の駅の運営・管理のあり方としては

① 公社を設立して業務委託

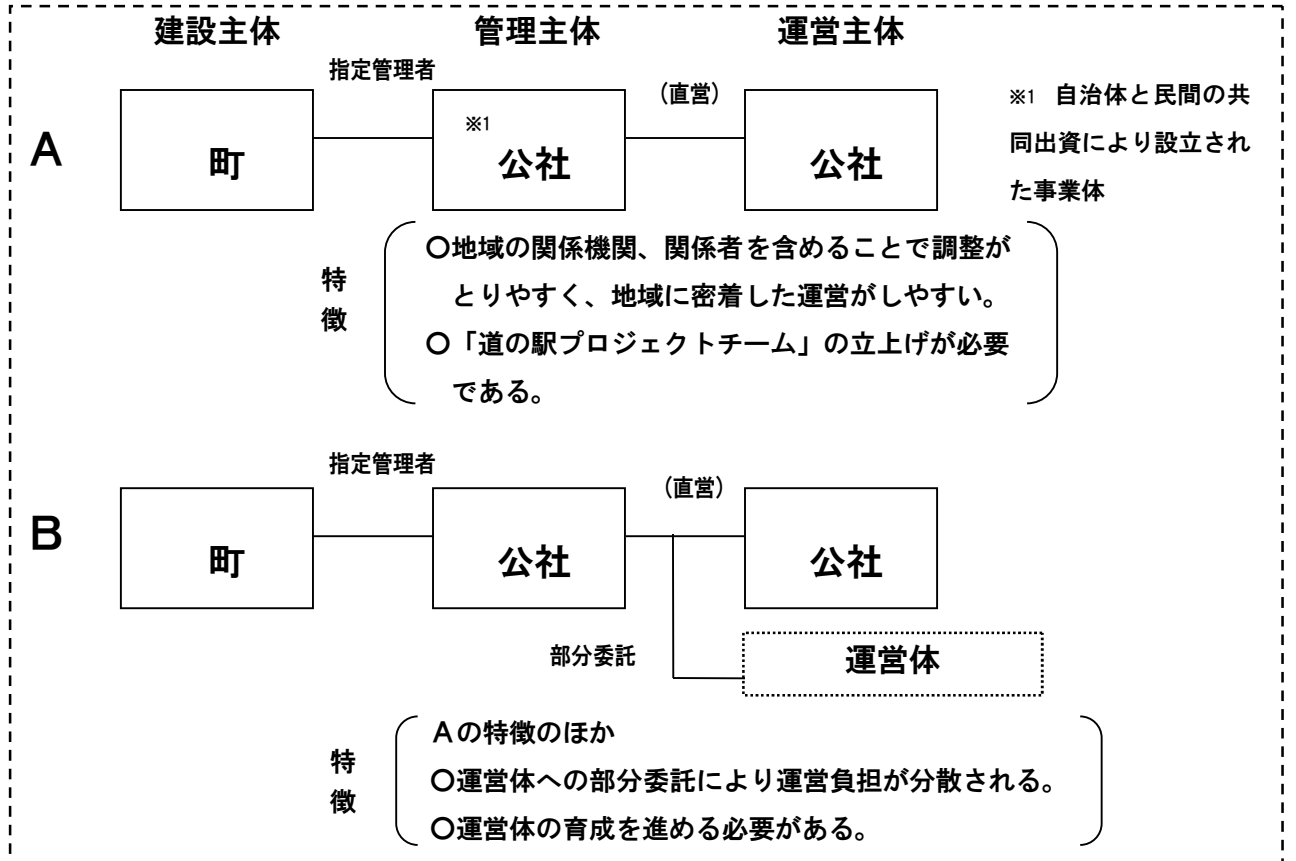
② 民間事業者（法人等）に委ねる業務委託

のいずれかの手法が考えられます。

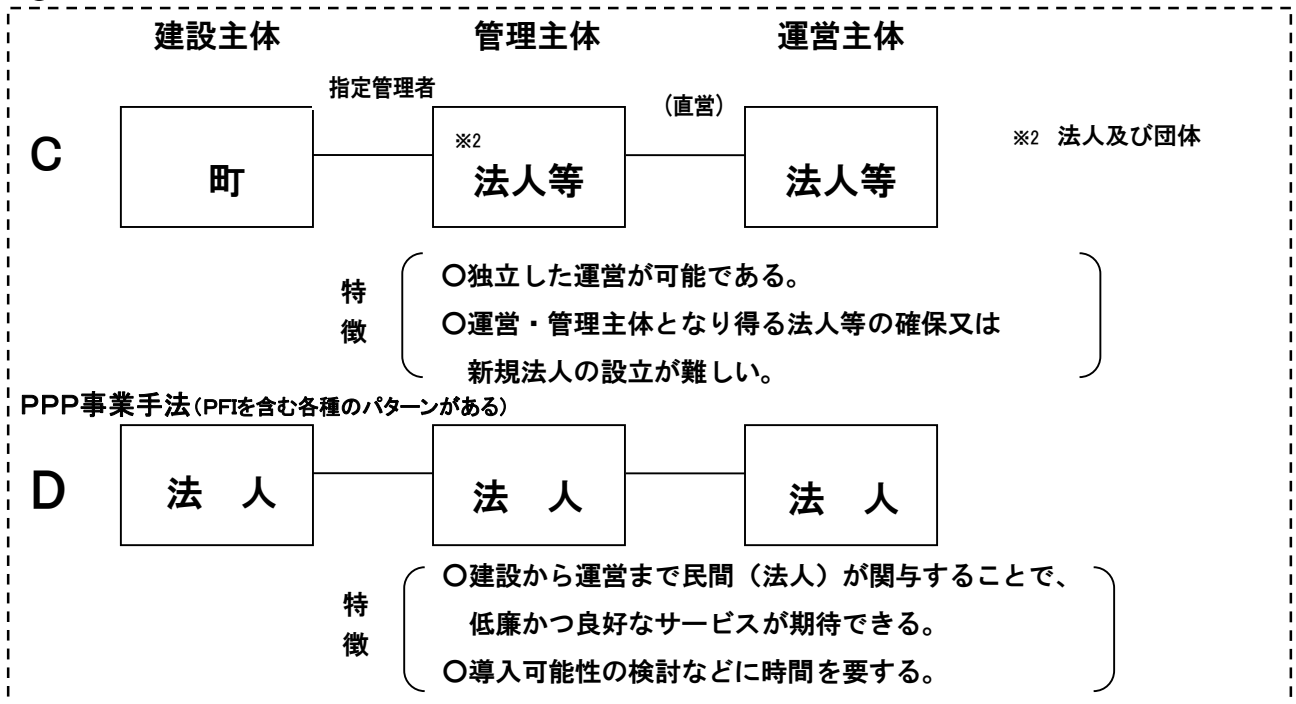
運営管理パターン整理

施設運営管理のパターンは、次のAからCの事例が代表的ですが、行政と民間がパートナーを組んで建設までを含めた公共サービスを担うPPP（パブリック プライベート パートナーシップ）の活用例も見られることから4つのパターンを例示します。

①公社を設立して業務委託



②民間事業者（法人等）に委ねる業務委託



当別町道の駅基本構想

Ⅱ 施設整備計画イメージ

1 施設整備の方針

[施設整備の基本コンセプト]

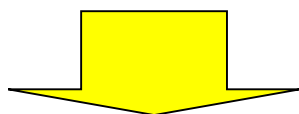
本町は認知度が低く、観光客の減少も顕著なため、町外住民にアピールする施設、しかも情報を提供するだけでなく、「わざわざ足を運んでもらう」「当別の味を楽しんでもらう」ことを念頭に、整備目的・ターゲット・ニーズを明確化する必要があります。

目標



人を呼び込む — 40万人以上/年間

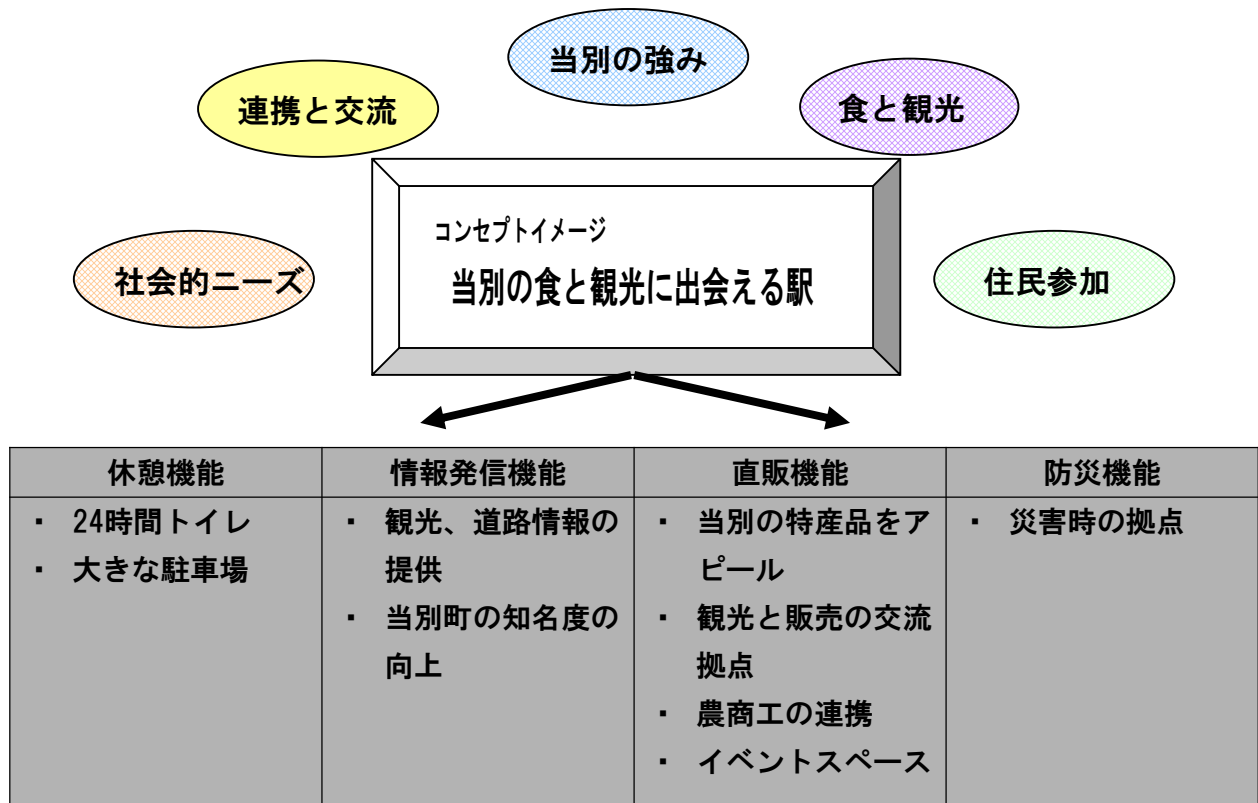
*本町の観光人口（交流人口）を倍増する目標



施設整備のキーワード

- ① 都市と農村の接合点
- ② 農業者と商工業者の連携と協調
- ③ 新鮮さ、おいしさの提供
- ④ 安全安心、健康と食へのこだわりと付加価値を高めた特産品
- ⑤ 当別の食と観光の掘り起し
- ⑥ 防災の観点からの機能

構想概念



[施設建設位置の検討]

道の駅の建設場所は、最大利用者と見込まれる札幌市北区、東区住民のアクセスのしやすさが重要となります。

また、アンケートの属性分析結果でも、直売所はより近い方が、1回あたりの購入額は少なくなるものの、リピーター率が高くなる傾向があります。

これらを考慮すると、町内において、より札幌市に近い地域、当別町西部地区が候補として考えられます。

この当別町西部地区から10km圏内（時間で20分）に位置する人口を分析すると、圏内人口約36万人のうち、実に26万人（73%）もの札幌市北区・東区住民をカバーすることが可能となります。

同時に、建設場所の前面道路の交通量が多いことも求められることから、当別町西部地区内の国道337号沿線が有力となります。

さらに、この国道337号は高規格道路のため、新たな信号機の設置も困難なことから、既存の信号機があることも大きなポイントとなります。

これらを勘案した結果、この条件に合致する地点は、太美市街地中心から1km～2km南に位置し、札幌方面から札幌大橋を渡って2つ目の信号機の付近、「国道337号、町道川下右岸線（17線）交差点」となります。

当別町道の駅基本構想

この地点は、建設位置の重要なポイントである札幌市からのアクセスのしやすさにおいて、有利であるばかりでなく、札幌大橋から国道 337 号を走行した際に、最も視野に入りやすく、目立つ場所となります。

加えて、この地点から、JR 石狩太美駅・ふとみ銘泉・ロイズふとみ工場・スウェーデンヒルズなどへのアクセスも容易であり、これら施設への周遊効果も期待出来ることから、「国道 337 号、町道川下右岸線（17 線）交差点」付近が建設場所として最適と考えられます。



図4 道の駅の候補地点

[施設利用の対象者層の想定]

★**エリア別** 施設利用者は、道央圏をはじめ、道内外の観光客と想定し、直売品の購入などを目的とした対象者については、本町に隣接する札幌市北区、東区の住民と想定しました。

★**年代・性別など** 男性より女性の方が、訪問意欲度が高く、美しい景観（花、スウェーデン風）や食資源にも注目（41p 参照のこと）しています。

そこで、女性をターゲットとして当別の資源の積極的かつ戦略的な情報発信を行うとともに、来訪者の期待に応えうるよう、それぞれの資源の魅力度を向上させることが、持続的な来訪者数の増加に向けて必要であると考えられます。

特に女性の 30 歳代以降の子育て世代、50 歳代以降の熟年世代は、単独ではなくファミリーやパートナー、グループで行動することが多いため、その経済的効果は大きいと予想されます。

2 施設規模と配置計画

想定位置の交通量から、最低限必要と考えられる施設規模等は以下のとおりとなります。魅力ある施設機能において更なる精査が必要です。

計画交通量 (24h 平日合計)	計画交通量 (12h 平日合計)	計画交通量 (12h 平日小型車)	計画交通量 (12h 休日小型車)
22,700台	17,100台	12,200台	11,200台

1 入込想定

	小型車台数	立寄率	立寄台数	平均乗車率	1日当客数	営業日数	年間客数
12h平日	12,200台	0.03	366台	1.5人/台	549人	271日	148,779人
12h休日	11,200台	0.07	①784台	2.5人/台	1,960人	94日	184,240人
2 駐車場規模想定						合計	333,019人

普通車駐車台数 ①×集中度	高齢者・ 障がい者用	小型車 駐車台計	大型車 割合	大型車 駐車台数	小型・大型合計
49台	4台	53台	0.287	20台	73台
1台あたり駐車場面積		70㎡/台		200㎡/台	
駐車場面積		3,710㎡		4,000㎡	7,710㎡

3 トイレ想定

駐車台数46～ 100台の施設	便器数	うち				トイレ面積
		男子小便器	男子大便器	女子大便器	多目的便所	
	23個	7個	4個	10個	2個	110㎡

4 施設面積想定

(単位㎡)

24時間 トイレ	道路情報 コーナー	地域情報 コーナー	ホール	飲食・休 憩 コーナー	地場産品 コーナー	農産物 直売所	バック スペース	通路 30%
110	40	40	100	120 (150)	70	70	80	190 (200)

*上段はテイクアウトのみ、()内はレストラン+テイクアウトの面積 合計 820 (860)

(【仮称】当別町イノベーションセンター検討調査業務報告書より)

ゾーニング（案）

利用者からみた「わかりやすさ」「使いやすさ」を第一に考え、下記の点に留意したゾーニング案は以下のとおりです。この一例は施設機能の規模などの変動により変わる場合があります。

- ・ エントランスホール(通路)近辺に情報コーナー
- ・ エントランスホール(通路)に隣接した地場産品コーナー
- ・ 無料休憩コーナーに隣接したテイクアウト・レストラン厨房
- ・ 直売所を別棟

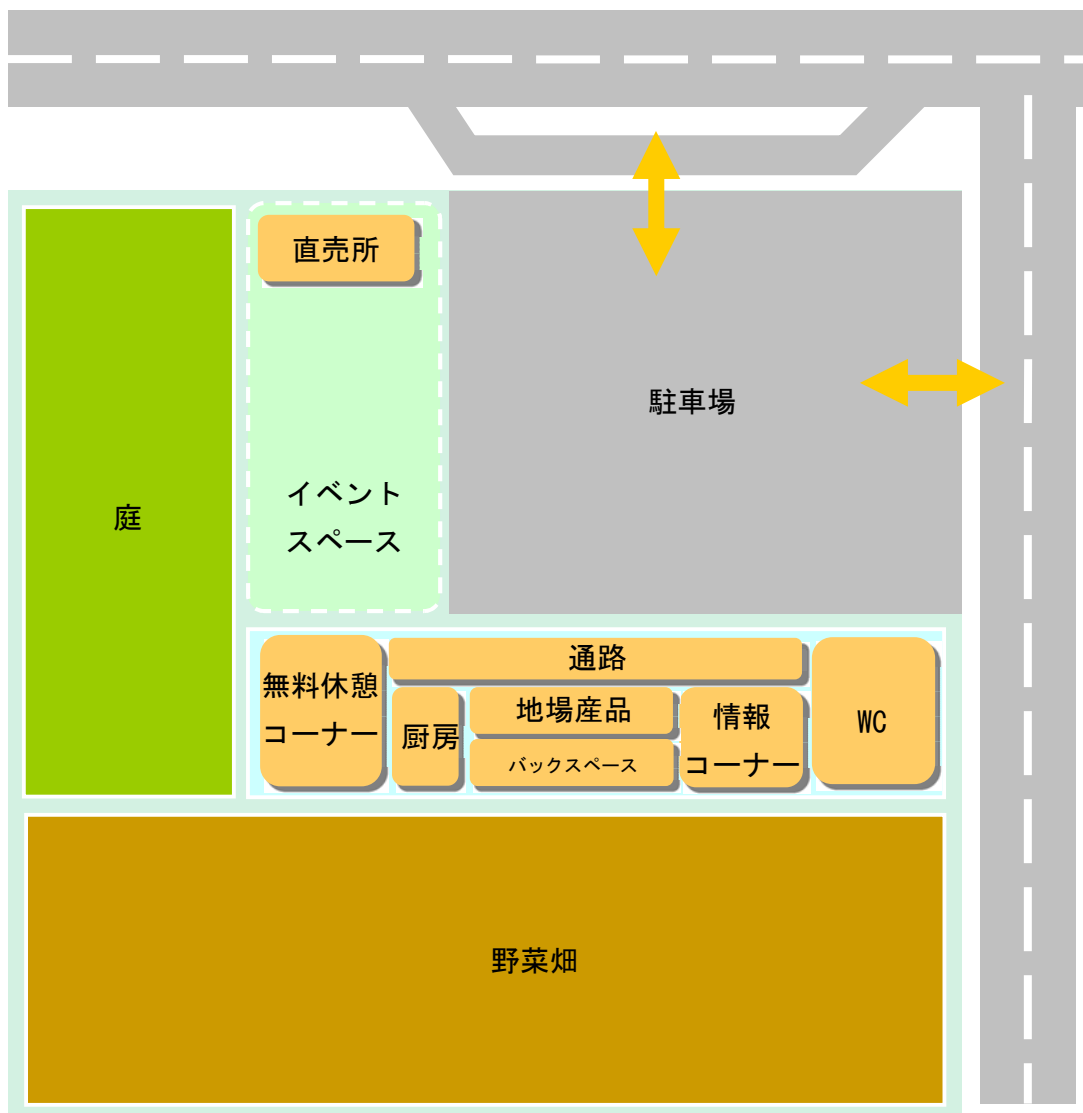


図5 ゾーニング案（【仮称】当別町の駅施設機能センター検討調査業務報告書より）

Ⅲ これからの進め方

1 開業までの取り組み

1-1 今後の作業工程

施設開業に向け、ハード事業とソフト事業の両面から事業を推進する。

□ スケジュール予定（案）

年度	施設整備	運営・管理体制づくり	
		全体	各施設 (直売所・販売所ほか)
平成25年度	○基本構想 (コンセプト・規模・配置 の方向性を決定)	○運営・管理体制の 方針づくり	
平成26年度	○基本計画・基本設計 (コンセプト・規模・配置)	○収支計画の立案 ○運営・管理体制づく り	○各施設の計画
平成27年度	○ 実施設計 (立面図、平面図等詳細の設計) ○ 工事着手	○応援スタッフづくり	○登録農家募集 ○参画企業等の募集 ○運営体制づくり ○新規商品計画 ○メニュー開発 ○運営詳細計画
平成28年度	 □ 工事完了・施設開業	○規約定款づくり ○運営・管理体制立ち 上げ ○広報活動 (例：施設愛称募集、 プレイベント等) ○スタッフ募集 ○運営・トレーニング ○備品等用意	○直売所出品等準備 ○運営規約づくり ○研修

※スケジュールは設計調査等の結果により、変動する可能性がある。

1-2 今後の取り組み

①運営・管理体制の構築

本構想に基づき、基本計画の中で運営・管理体制づくりを進める。

□主体的に進める組織の立ち上げ

*施設機能・運営体制などを主体的に検討を進める組織（「道の駅プロジェクトチーム」）を立ち上げる。

□運営・管理主体の決定

*指定管理者制度の活用など、運営が可能な組織（運営主体）、効率的な管理組織（管理主体）を検討する。

□人材募集及び研修

*施設運営に携わる人材の起用は、今後の取り組みにおいて重要な要素であり、募集においては地域の雇用の場として広く募集し優れた人材の起用を基本とするとともに開業までに十分な研修期間を確保できるスケジュールで進める。

□運営詳細計画づくり

*各機能において、きめ細かな運営を実施していけるよう、各機能に応じた詳細の運営計画づくりを進める。

②商品供給体制の構築

施設整備の計画に応じた商品供給体制づくりを進める。

□安定的な農産物等の供給体制づくり

*直売所においては登録農家の募集等を進め、参加農業者を確保するとともに、年間を通じて供給できる質と量の確保を図るため生産研修等を行う。

*テイクアウト（レストラン含む）においては運営する人材の確保とあわせて供給するメニューの検討を進め、十分な研修を実施する。

□生産者の育成

*生産者への情報提供及び研修等を実施する。

□新たな加工品、メニュー等の開発

*直売所で供給する加工品やテイクアウト（レストラン含む）で供給するメニューを開発する。

③機運の醸成

道の駅がより魅力的で愛される施設となるよう町民の参画を得ながら機運づくりを進める。

□取り組み例

*チャレンジショップなど・・

町内で起業を目指す人へのショップブースの設置

*広報活動・・

施設愛称募集／イベント／メニュー等アイデア募集など

*応援スタッフづくり・・

住民参加のイベント／道の駅サポーター募集 など

2

具体化に向けての課題

「道の駅」が長く愛され、来場いただける施設となるように、またその取り組みが町の活性化に波及していくよう、具体化に向けては次の点を重視して計画を推進する必要があります。

○地域住民の参画・協働による取り組みの展開

「道の駅」は、①人を呼び込み、町外の人に当別町の魅力を伝える場、②来町者との交流の場、③町民のコミュニティを育む場を目指しています。

地域住民は「道の駅」の利用者であると同時に、地域の財産となる「道の駅」をともに愛し、大切に育てていく担い手でもあります。

地域住民の参画・協働により地域全体で取り組みを進めていくことが事業を成功させるためには非常に重要であり、計画推進にあたっては、名称募集やサポーター制度の募集など、地域住民の参画機会を広げることが必要です。

○周辺地域との連携

「道の駅」の建設をきっかけとして、町内の施設間連携や周辺観光施設等との連携、また、他地域との物産供給体制での連携など、計画段階からその取り組みや仕組みづくりを進めます。

○施設整備計画と概算事業費

施設の整備に際しては、関係官庁と財源等各種制度の活用、調整を十分に行うとともに、ランニングコストも含めた中長期的な計画を策定するなど、町財政の負担に配慮しつつ、検討を進める必要があります。

また、施設の運営についても、民間活力の積極的な導入を図りつつ、収益性の高い事業展開を目指し、運営主体を決定していく必要があります。

○冬季間の利用客の確保

本構想では、多くの人を呼び込むことを目的としていることから「道の駅」を前提としています。しかし、道内における多くの道の駅が、冬の利用者が激減する現状から、特に期間の長い冬の魅力を引き出し、提供できるサービスを考案する必要があります。

経営面においても冬季間の売り上げの減少が全体の運営を圧迫することのないように、維持管理費を捻出できるような戦略を練る必要があります。



魅力の多い冬のイベント

○防災機能等、他の機能との調整

国土交通省でも「道の駅」を防災拠点とする位置づけを検討しており、関係機関と調整を図りながら、計画を推進します。

○持続的に発展する施設づくり

「道の駅」は開業後においても、施設の継続的な魅力の維持・向上や発展が求められます。アドバイザーとなる専門家との交流、連携など、開業後も定期的に活用できるネットワークを準備段階から形成します。

資 料 編

1 当別町の概況

1-1 人口・産業

当別町は石狩振興局管内の北部に位置し、札幌市中心部までの距離は25km（所要時間約40分）。面積422.71km²で、南北に細長い形状となっている。

人口は、平成25年4月1日現在（住民基本台帳ベース）で17,835人、7,636世帯となっており、人口は平成11年の20,875人をピークに減少傾向となっている。産業別では第1次産業の割合が17%、第2次産業は19%、第3次産業は64%となっており、第1次産業の割合が減少している。

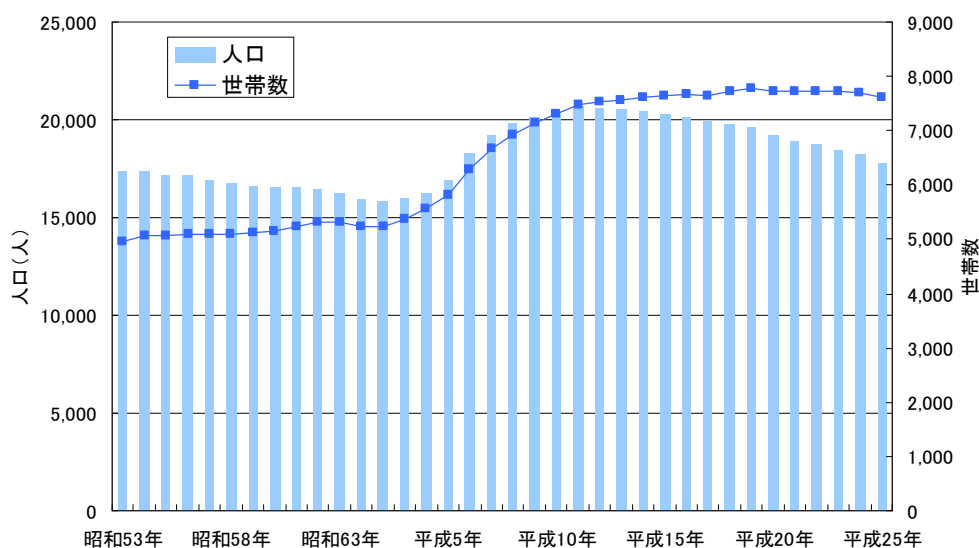


図6 当別町の人口・世帯数の推移

(出典) 住民基本台帳

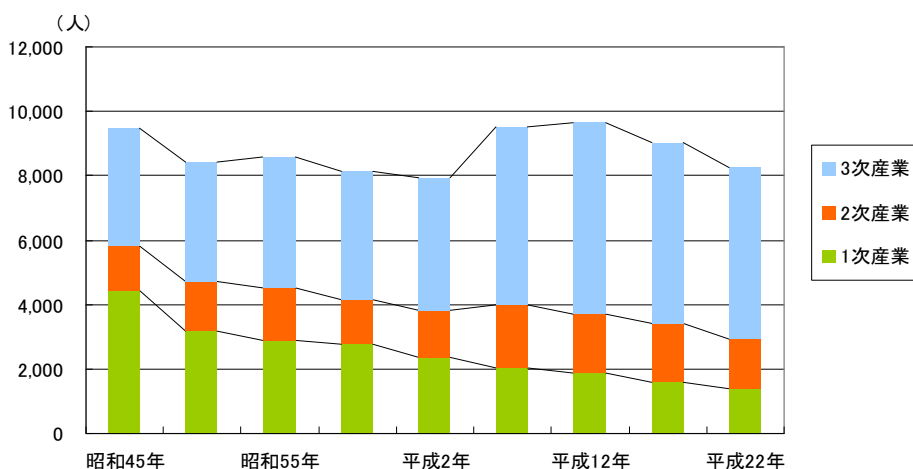


図7 当別町の産業大分類別人口の推移

(出典) 国勢調査

当別町の商業販売額は計 160 億円（平成 19 年度値）となっており、販売額のうち小売業が 80%を占めている。

販売額の推移を見ると、昭和 57 年度から減少傾向となったが、札幌大橋開通や JR 学園都市線の増便などがあった昭和 63 年度を契機に増加に転じた。

その後は、平成 6 年度（250 億円）をピークに減少し、近年は微減となっている。これは、平成 8 年以降、札幌市東区・北区、江別市に立地した大型スーパーマーケットの影響を受けているのではないかと考えられる。

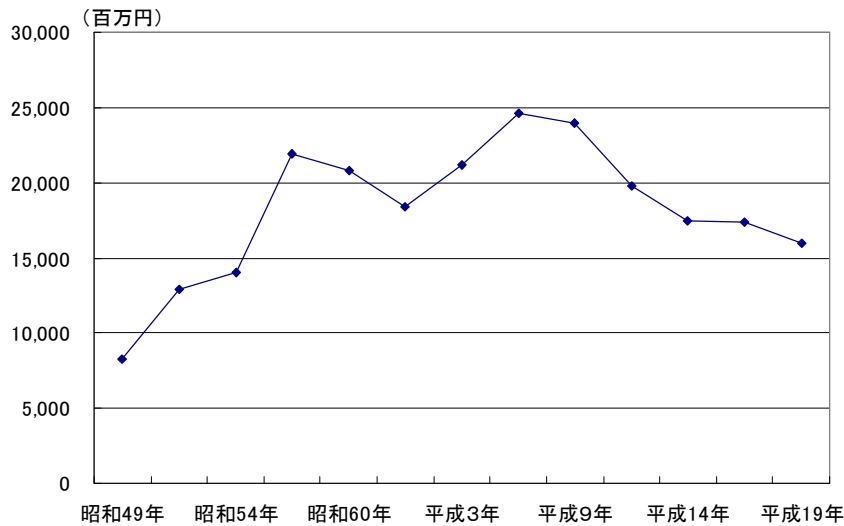


図8 当別町の商業販売額（卸・小売合計）の推移 (出典) 商業統計調査

当別町の工業出荷額は計 1,846,110 万円（平成 19 年度値）となっており、従業者数の 90%以上が食料品製造業となっている。

出荷額の推移を見ると、平成 11 年度以降急激に増加し、その後も増加傾向が続いている。

これは、平成 11 年に株式会社ロイズコンフェクトのふと美工場が稼動したことによるものと考えられる。

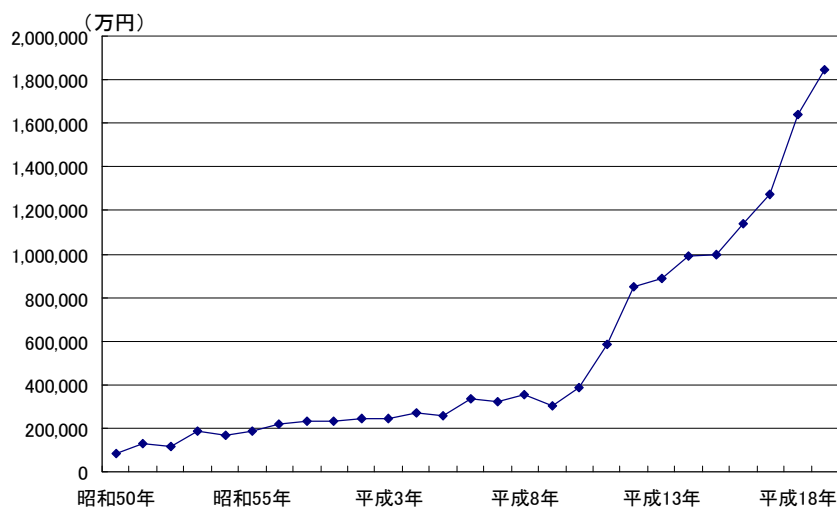


図9 当別町の工業出荷額の推移 (出典) 工業統計調査

当別町道の駅基本構想

区 分		H6 年	H9 年	H11 年	H14 年	H16 年	H19 年
合 計	店舗数	158	151	160	143	134	126
	従業員数	992	1,007	1,057	1,016	919	989
	販売額(百万円)	24,645	24,003	19,800	17,506	17,330	15,970
小売業	店舗数	141	139	140	130	123	113
	従業員数	825	920	937	912	861	914
	販売額(百万円)	16,413	19,080	13,958	13,972	14,858	12,813
卸売業	店舗数	17	12	20	13	11	13
	従業員数	167	87	120	104	58	75
	販売額(百万円)	8,232	9,423	5,842	3,534	2,472	3,157

表 2 当別町の商業販売、店舗数、従業員の経年変化

(出典) 商業統計調査

総数	事業所数	10
	従業者数(人)	1,163
	出荷額等(万円)	1,846,110
	付加価値額(万円)	1,075,802
食料品製造業	事業所数	3
	従業者数(人)	1,060
	出荷額等(万円)	χ
	付加価値額(万円)	χ
窯業・土石製品製造業	事業所数	1
	従業者数(人)	7
	出荷額等(万円)	χ
	付加価値額(万円)	χ
金属製品製造業	事業所数	5
	従業者数(人)	92
	出荷額等(万円)	281,160
	付加価値額(万円)	109,867
その他の製造業	事業所数	1
	従業者数(人)	4
	出荷額等(万円)	χ
	付加価値額(万円)	χ

表 3 当別町の工業

(出典) 工業統計調査

1-2 まちづくりと観光入込実態

本町は、明治4年、仙台藩岩出山領主・伊達邦直公が家臣を率いて移住し、北海道では珍しい士族の開拓が行われた歴史のあるまちである。

昭和63年、札幌大橋開通やJR学園都市線の増便などから宅地造成が始まり、札幌市近郊の田園都市として発展してきた。

宮城県大崎市と愛媛県宇和島市とは、開拓の祖、伊達氏の縁で姉妹都市交流が続いている。

また、海外ではスウェーデン王国ダーラナ州レクサンド市が姉妹都市であり、スウェーデンと気候風土が似ているという発想から、北方型住宅地のスウェーデンヒルズと一般財団法人スウェーデン交流センターが存在し、異国情緒あふれる夏のイベント「夏至祭」の開催など、国際交流をヒントとした独自のまちづくりを行っている。

歴史的背景、まちづくり、イベントの側面から見る当別町の観光入込数の経年変化を見ると、平成14年度(68万人)に比較して、平成23年度(38万人)は45%程度減少している。

さらに、北海道の観光入込状況と比較すると、当別町では道内客・日帰り客の割合が極めて高く、入込数の90%以上を占めている。

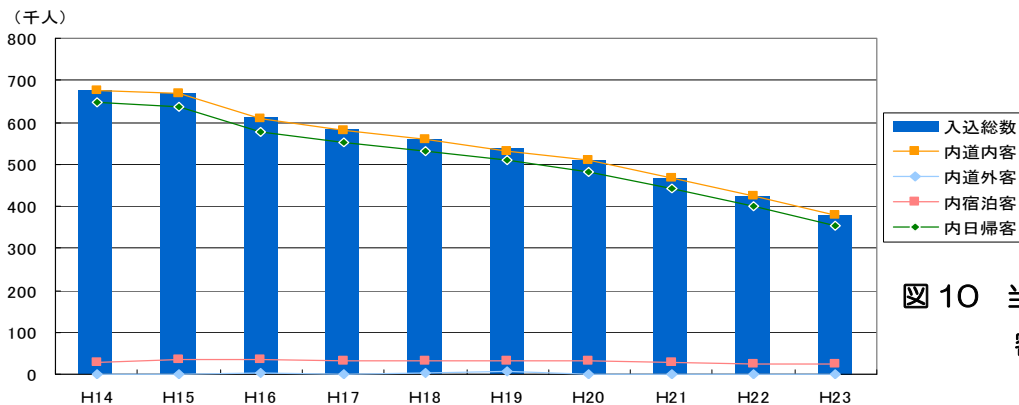


図10 当別町の観光入込客の経年変化

(出典) 北海道観光入込客数調査報告書

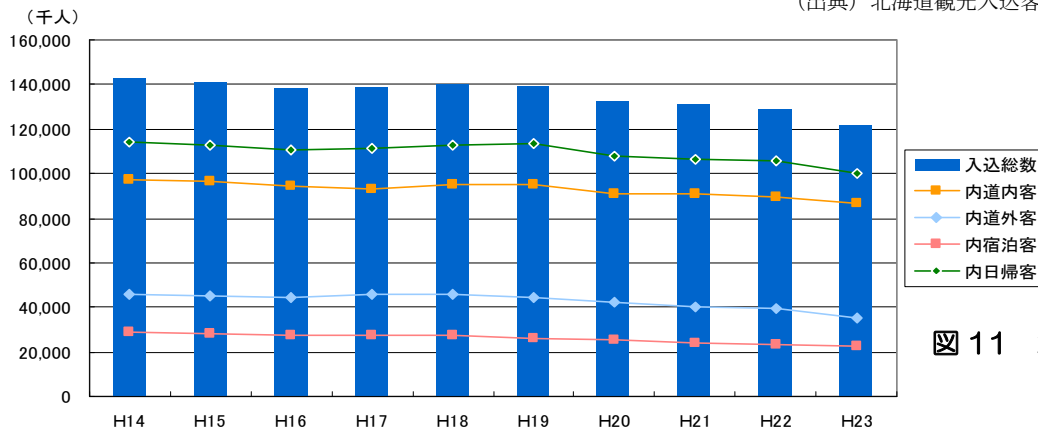


図11 北海道の観光入込客の経年変化

(出典) 北海道観光入込客数調査報告書

当別町道の駅基本構想

当別町の主要観光施設への入込数の経年変化をみると、主力となる観光施設（道民の森、ふとみ銘泉万葉の湯）では入込数が大幅に減少しているが、他の施設ではほぼ横ばいの傾向となっている。最も入込数の多い「道民の森」は、平成15年をピークに入込数が減少、現在はピーク時の7割程度で横ばい。「ふとみ銘泉万葉の湯」も年々減少しており、現在は平成14年の入込数の5割を下回っている。

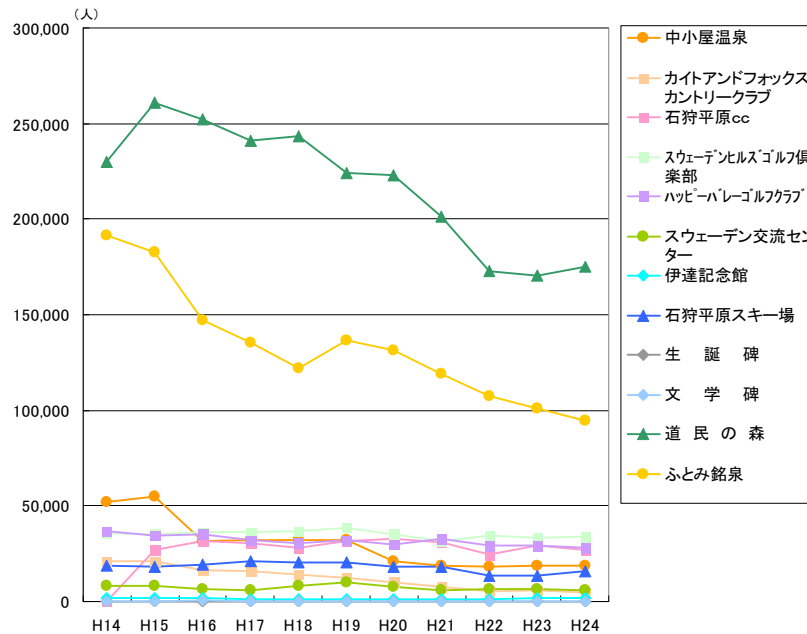


図12 当別町の主要観光施設入込数の経年変化

(出典) 当別町資料

当別町の主要イベントへの入込数の経年変化をみると、ばらつきはあるがほぼ横ばいで、亜麻まつりは増加傾向にある。冬期の代表的イベントである「あそ雪の広場」は、入込数が最も多いイベントとなっており、観光客が減少する冬期間の集客が期待できる重要なイベントであるといえる。

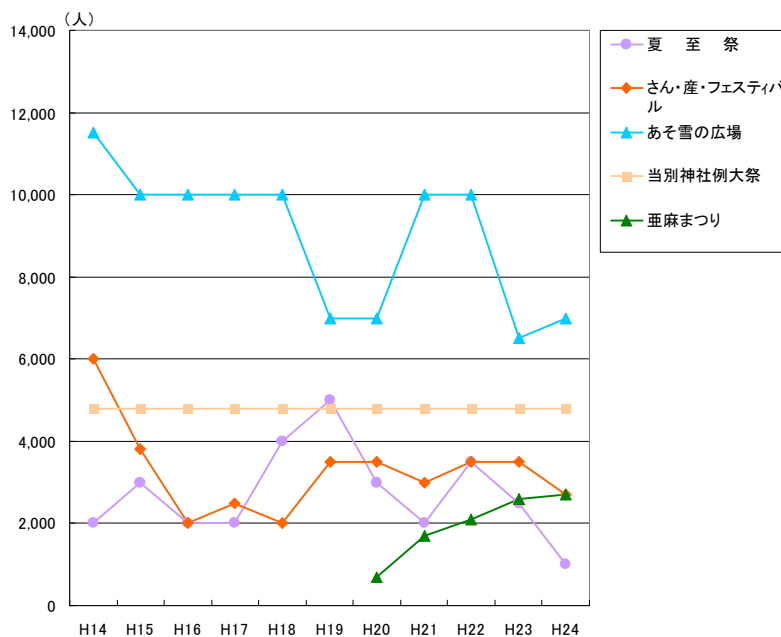


図13 当別町の主要イベント入込数の経年変化

(出典) 当別町資料

2 マーケティング調査と事例調査

2-1 利用者ニーズの把握

(1) 調査の目的

近隣住民が当別町に抱いているイメージやニーズを明らかにし、自他ともに優位と意識する農産物の販売（直売）の可能性の確認と、それに付随する加工品などへの潜在的な購買意欲があるかを確認する。

(2) インターネットアンケート調査の概要

予定される施設を情報発信の拠点（仮称）当別町インフォメーションセンターと想定し、その利用が考えられる圏域（センター想定エリアから 30km 圏内）の当別町外の住民に対して、日常生活における農産物直売所等の類似施設の利用動向や、当別町の特産品に関する認知度やイメージ、さらにセンター建設にあたって、どのような機能があったら利用すると思うかなどについてインターネットアンケート調査を行った（2013年7月30日（火）～2013年7月31日（水））。

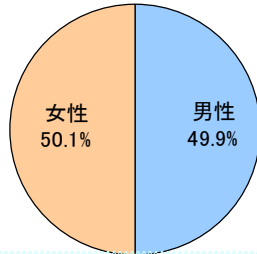
表4 インターネット調査でのサンプル割付

分類	市区町村名	20代		30代		40代		50代		60代		小計		合計
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
当別隣接地区	石狩市	30	30	41	42	43	43	47	48	47	47	208	210	418
	江別市													
	札幌市北区													
	札幌市手稲区													
当別周辺地区（札幌）	札幌市東区	30	30	41	42	43	43	47	48	47	47	208	210	418
	札幌市白石区													
	札幌市中央区													
	札幌市厚別区													
	札幌市西区													
	札幌市豊平区													
当別周辺地区（札幌以外）	札幌市清田区	11	12	22	21	26	27	32	31	15	13	106	104	210
	札幌市南区													
	新篠津村													
	南幌町													
	北広島市													
	月形町													
	長沼町													
	岩見沢市													
栗山町														
恵庭市														
由仁町														
合計		71	72	104	105	112	113	126	127	109	107	522	524	1,046

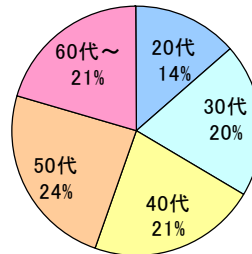
当別町道の駅基本構想

(3) 回答者の属性

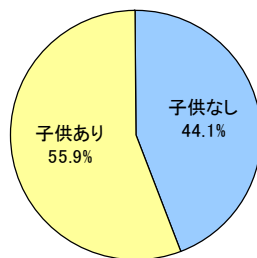
性別
(n=1046)



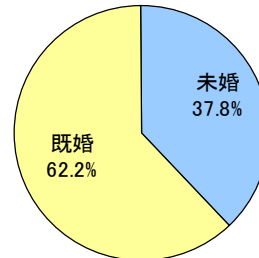
年齢
(n=1046)



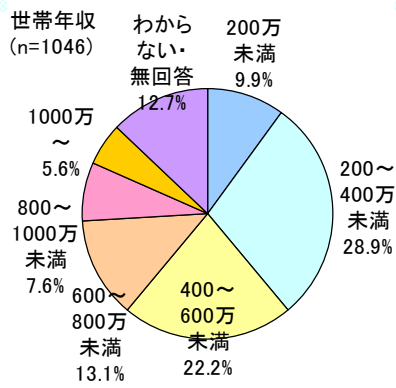
子供の有無
(n=1046)



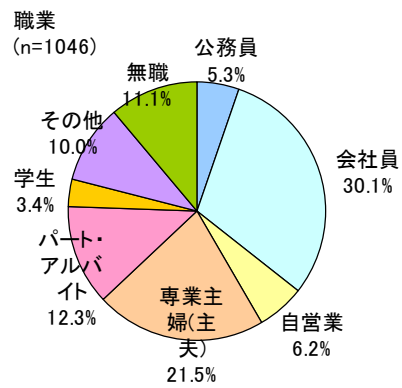
未既婚
(n=1046)



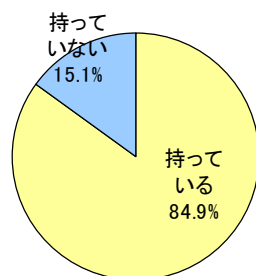
世帯年収
(n=1046)



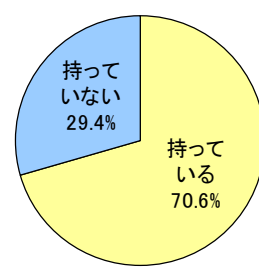
職業
(n=1046)



普通免許の有無
(n=1046)



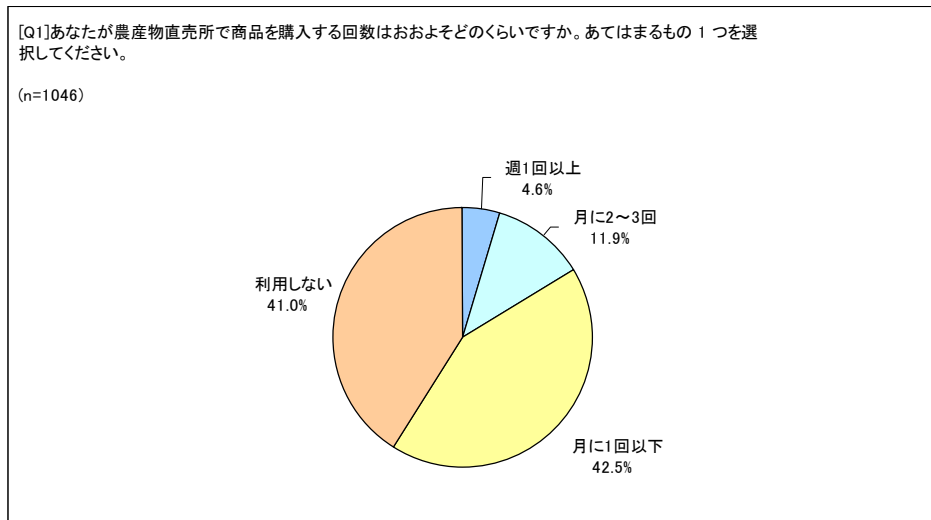
自家用車の有無
(n=1046)



(4) 回答の内容

①農産物直売所での消費動向

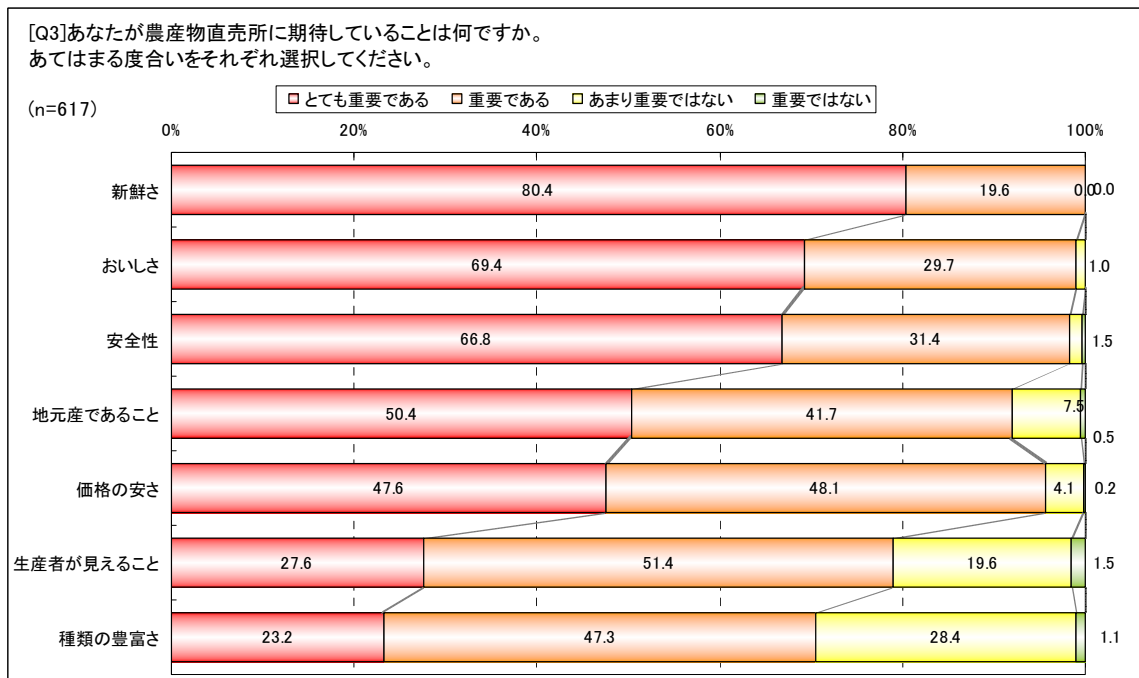
農産物直売所で商品を購入する頻度は、週に1回以上、月に2~3回、月に1回以下と回答した人が60%程度。



②農産物直売所に期待していること

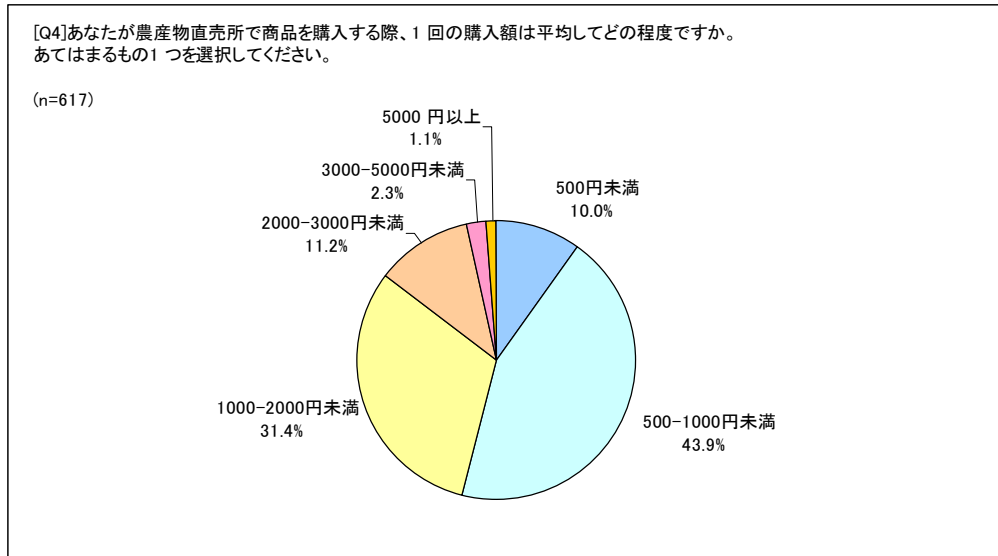
重要度が高い項目としては、「新鮮さ」で80.4%、次いで、「おいしさ」、「安全性」でそれぞれ70%程度。

一方、比較的重要度が低い項目としては、「種類の豊富さ」や「生産者が見えること」で、とても重要であるという人は25%前後。



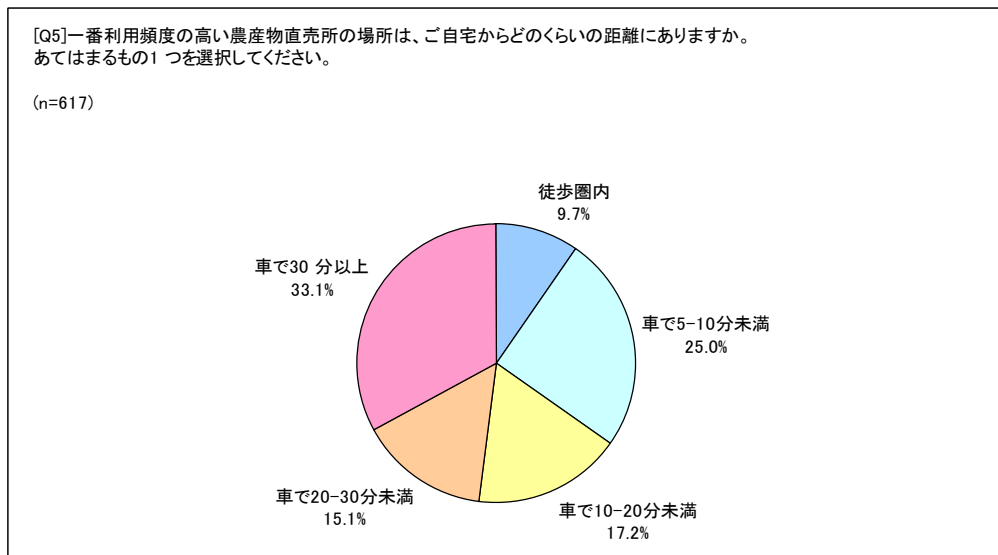
③農産物直売所での1回の購入額

1回の購入額は、「500円～1,000円未満」が43.9%、「1,000円～2,000円未満」が31.4%と、500円～2,000円が全体の70%以上。



④自宅から利用頻度の高い農産物直売所までの距離

一番利用頻度の高い農産物直売所の場所については、車で20分未満（およそ10km圏内）の距離と答えた人が半数以上。



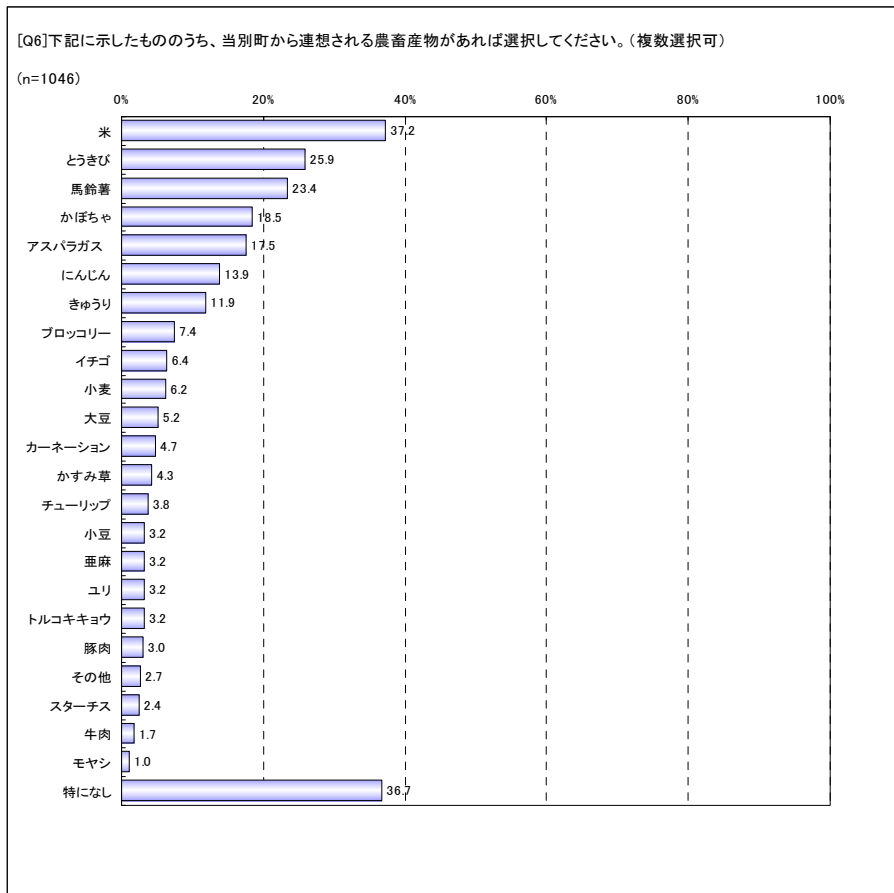
利用頻度を比較してみると、移動距離が長いほど利用頻度が低くなっている。

「車で30分以上」と回答した人の80%以上は月に1回以下と答えているのに対し、「徒歩圏内」・「車で5～10分未満」・「車で10～20分未満」と回答した人の40%程度が、「月に2～3回以上」と答えている。また、1回の購入金額（上位4分類）で比較すると、移動距離が長くなるほど購入金額が高くなる。

以上から、近くに農産物直売所がある方は、一回の購入単価は低めとなり、直売所まで距離がある方は、一回に多く購入する傾向が読み取れる。

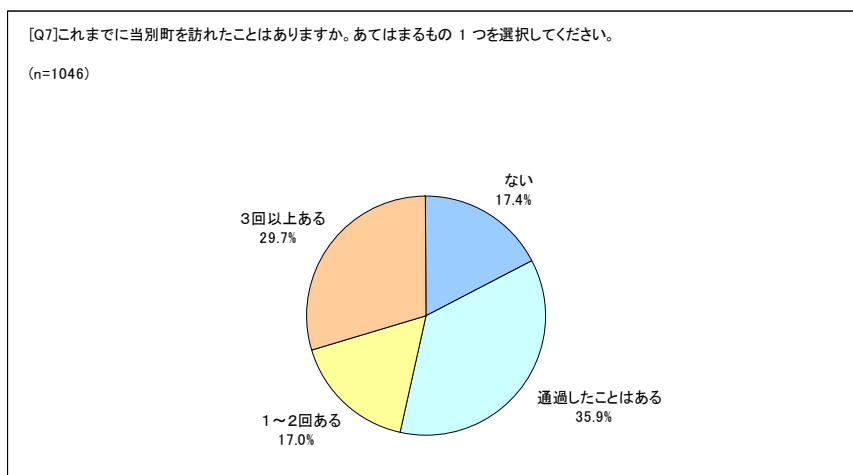
⑤当別町から連想される農畜産物【当別町の認知度】

当別町から連想される農畜産物については、「米」が37.2%、「とうきび」が25.9%、「馬鈴薯」が23.4%と、20%以上の認知度があったが、他は低い結果となった。これらの結果に生産量等との相関性が見られない。また、「特になし」が36.7%となっていることから、農産物のイメージづくりと情報発信が不十分であると考えられる。



⑥当別町への来訪回数

通過したことがある人（通過しただけ）が35.9%となっており、これらの人をいかに当別町に引き止めるかがポイントとなると考えられる。



⑦当別町の資源に対する認知度及び訪問意欲度

●認知度

高い順から、「ふとみ銘泉万葉の湯」52.7%、「道民の森」39.1%、「中小屋温泉」34.2%、「ゴルフ場」の30.8%となっているが、認知度は全体的にかなり低い。

●訪問意欲度

高いものは、「亜麻の花の景観スポット」、「ふとみ銘泉万葉の湯」、「スウェーデン交流センター」、「道民の森」、「中小屋温泉」といった当別町の自然・景観スポットや温泉に続いて、「ふれあい倉庫」、「つじの蔵」、「はなポッケ」といった食を楽しむことができるスポットとなっている。

●男女別の比較

男女共に認知度が50%以上と高かったのは「ふとみ銘泉万葉の湯」、「道民の森」、「中小屋温泉」となった。男性では、「ゴルフ場」の認知度も35.6%と比較的高かった。訪問意欲度が男女共に60%以上と高かったのは、「道民の森」、「ふとみ銘泉万葉の湯」、「中小屋温泉」であった。

女性のみが60%以上と男性の訪問意欲度よりも高くなったのが、「亜麻の花の景観スポット」、「スウェーデン交流センター」、「はなポッケ」、「ふれあい倉庫」、「つじの蔵」、「さん・産・フェスタ」となっており、女性の方が男性よりも、当別町の美しい景観（亜麻の花、スウェーデン風の街並み）や文化、食を楽しむことのできるスポットへの関心が高いことがわかる。

また、全体的に女性の方が、訪問意欲度が高くなっていることも特徴である。

●性別・年代別での訪問意欲度の比較

「スウェーデン交流センター」はどの年代の女性も訪問意欲度が高い。「亜麻の花の景観スポット」も同様に女性の訪問意欲度が高いが、特に60代女性が高くなっている。「ふれあい倉庫」・「はなポッケ」・「つじの蔵」のような特産品を扱う施設については、特に30代以上の女性の訪問意欲度が高い。

インターネット調査結果一覧（男女／年代別）

		全体	男性					女性				
			20代	30代	40代	50代	60代	20代	30代	40代	50代	60代
亜麻の花の景観スポット	認知度	10.6	7.0	9.6	8.9	11.9	11.9	5.6	9.5	10.6	11.0	15.9
	意欲度	66.4	56.3	56.7	58.9	55.6	68.8	62.5	70.5	69.0	73.2	87.9
ふとみ銘泉万葉の湯	認知度	52.7	23.9	48.1	65.2	54.8	50.5	29.2	60.0	52.2	63.0	59.8
	意欲度	64.7	59.2	63.5	63.4	57.1	61.5	58.3	78.1	68.1	64.6	71.0
スウェーデン交流センター	認知度	22.1	8.5	18.3	25.0	30.2	24.8	11.1	12.4	22.1	23.6	35.5
	意欲度	64.5	54.9	49.0	53.6	56.3	66.1	68.1	69.5	69.9	78.7	75.7
道民の森	認知度	39.1	29.6	33.7	56.3	42.1	36.7	27.8	37.1	45.1	44.1	29.0
	意欲度	63.1	62.0	57.7	67.9	61.9	65.1	70.8	75.2	61.1	55.1	57.9
中小屋温泉	認知度	34.2	11.3	25.0	46.4	42.1	44.0	9.7	22.9	31.9	44.1	44.9
	意欲度	63.0	56.3	53.8	67.9	57.9	67.0	56.9	65.7	60.2	66.1	73.8
ふれあい倉庫	認知度	13.8	8.5	13.5	14.3	11.9	22.9	9.7	9.5	11.5	17.3	15.9
	意欲度	62.9	53.5	51.9	61.6	51.6	67.9	54.2	66.7	68.1	72.4	74.8
つじの蔵	認知度	9.5	7.0	6.7	9.8	11.1	12.8	4.2	5.7	12.4	10.2	11.2
	意欲度	62.5	47.9	54.8	58.0	56.3	68.8	43.1	64.8	68.1	73.2	77.6
はなポッケ	認知度	10.7	9.9	7.7	11.6	12.7	14.7	6.9	7.6	10.6	10.2	13.1
	意欲度	61.9	47.9	52.9	57.1	51.6	64.2	50.0	67.6	69.0	71.7	77.6
当別ダム	認知度	19.6	22.5	21.2	30.4	25.4	28.4	8.3	9.5	12.4	16.5	17.8
	意欲度	58.1	52.1	55.8	58.0	59.5	62.4	40.3	61.9	58.4	59.8	64.5
さん・産・フェスタ	認知度	8.0	7.0	6.7	11.6	9.5	14.7	4.2	4.8	5.3	7.1	6.5
	意欲度	57.8	47.9	60.6	56.3	46.8	62.4	43.1	70.5	58.4	55.1	71.0
夏至祭	認知度	11.6	8.5	8.7	15.2	11.1	11.9	5.6	9.5	12.4	15.7	14.0
	意欲度	54.6	50.7	50.0	50.9	47.6	54.1	51.4	74.3	52.2	56.7	57.9
当別観光情報プラザ FIKA	認知度	12.7	12.7	11.5	13.4	11.9	18.3	6.9	9.5	10.6	15.7	14.0
	意欲度	51.6	49.3	41.3	48.2	42.9	61.5	29.2	54.3	54.9	59.1	67.3
伊達記念館・伊達邸別館	認知度	11.5	9.9	10.6	17.9	10.3	17.4	9.7	1.9	12.4	9.4	14.0
	意欲度	51.6	46.5	51.0	46.4	54.0	63.3	31.9	46.7	41.6	58.3	67.3
石狩ホーストレック	認知度	11.4	11.3	6.7	17.0	15.9	18.3	5.6	9.5	9.7	9.4	8.4
	意欲度	44.3	49.3	39.4	42.9	35.7	47.7	55.6	58.1	46.0	41.7	34.6
北海道亜麻まつり in 当別	認知度	7.9	7.0	4.8	7.1	9.5	11.9	2.8	5.7	6.2	10.2	10.3
	意欲度	41.7	35.2	31.7	38.4	34.9	47.7	29.2	50.5	36.3	45.7	61.7
界隈性のある市街地	認知度	19.1	11.3	17.3	28.6	25.4	26.6	9.7	9.5	21.2	20.5	13.1
	意欲度	41.4	49.3	40.4	39.3	34.9	46.8	34.7	44.8	38.9	37.8	49.5
パークゴルフ場	認知度	15.9	15.5	9.6	23.2	19.0	20.2	6.9	14.3	14.2	14.2	17.8
	意欲度	37.2	50.7	34.6	38.4	37.3	43.1	31.9	42.9	27.4	31.5	38.3
あそ雪の広場	認知度	6.4	4.2	7.7	10.7	5.6	9.2	4.2	6.7	5.3	3.9	5.6
	意欲度	36.1	43.7	48.1	41.1	26.2	33.9	45.8	49.5	31.9	22.0	29.0
石狩平原スキー場	認知度	20.3	15.5	16.3	32.1	26.2	27.5	12.5	13.3	20.4	18.9	15.0
	意欲度	29.7	46.5	38.5	34.8	24.6	26.6	33.3	41.9	23.9	18.1	19.6
ゴルフ場	認知度	30.8	21.1	21.2	44.6	39.7	45.0	18.1	21.9	26.5	26.8	33.6
	意欲度	24.4	32.4	24.0	25.0	34.1	32.1	20.8	21.0	13.3	20.5	21.5
平均	認知度	17.3	12.2	14.3	23.2	19.8	22.2	9.4	13.4	16.5	18.4	18.0
	意欲度	48.7	46.8	45.3	47.7	43.5	52.2	42.2	55.2	47.3	49.1	55.1

注1：太枠（赤字）は世代ごとで最も高い訪問意欲度

当別町道の駅基本構想

●認知度及び訪問意欲度の地域別の傾向

石狩市・江別市住民が、その他の地域に比べて当別町の認知度がわずかに高い程度。隣接している札幌市の北区・東区住民の認知度も低い傾向にある。

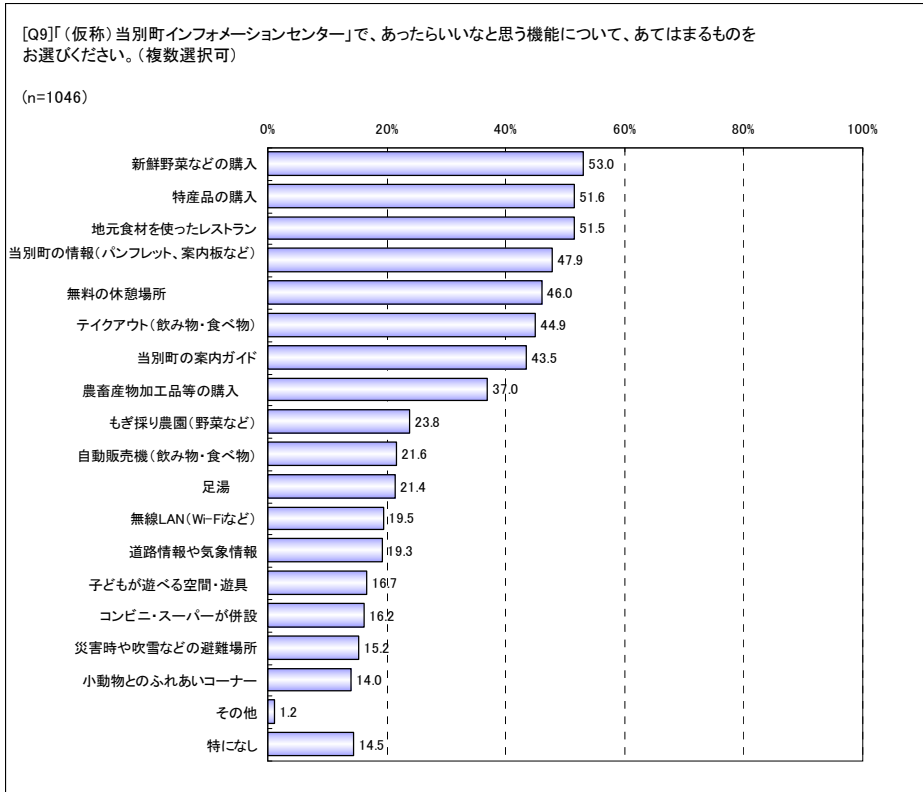
インターネット調査結果一覧（地域別）

		全体	当別隣接地区		当別周辺地区	
			石狩市・江別市	札幌市 北区・東区	札幌市 その他の区	札幌市以外
亜麻の花 の景観ス ポット	認知度	10.6	13.0	13.2	9.0	9.5
	意欲度	66.4	67.5	64.8	65.9	69.0
ふとみ銘 泉万葉の 湯	認知度	52.7	63.6	61.6	47.9	47.6
	意欲度	64.7	59.7	69.4	61.9	66.7
スウェー デン交流 センター	認知度	22.1	28.6	27.0	19.7	19.0
	意欲度	64.5	64.9	59.4	66.5	66.7
道民の森	認知度	39.1	61.0	43.4	31.4	42.9
	意欲度	63.1	64.9	64.8	61.5	63.8
中小屋温 泉	認知度	34.2	48.1	40.9	29.9	30.0
	意欲度	63.0	64.9	61.9	63.8	61.9
ふれあい 倉庫	認知度	13.8	28.6	13.5	13.2	10.5
	意欲度	62.9	64.9	59.1	64.2	64.3
つじの蔵	認知度	9.5	14.3	9.6	9.2	8.1
	意欲度	62.5	67.5	56.9	63.8	65.2
はなポッ ケ	認知度	10.7	23.4	11.0	10.3	6.7
	意欲度	61.9	63.6	60.1	62.3	62.4
当別ダム	認知度	19.6	37.7	21.7	15.7	19.0
	意欲度	58.1	66.2	58.4	56.3	59.0
さん・産・ フェスタ	認知度	8.0	14.3	9.6	6.9	5.7
	意欲度	57.8	59.7	60.5	56.3	56.7
夏至祭	認知度	11.6	15.6	16.4	9.0	10.0
	意欲度	54.6	54.5	55.9	52.5	58.1
当別観光 情報プラ ザ FIKA	認知度	12.7	20.8	12.1	12.3	11.4
	意欲度	51.6	53.2	49.5	53.8	49.0
伊達記念 館・伊達 邸別館	認知度	11.5	13.0	13.2	10.3	11.4
	意欲度	51.6	50.6	46.6	53.8	53.8
石狩ホー ストレック	認知度	11.4	20.8	12.8	10.3	9.0
	意欲度	44.3	45.5	44.5	46.7	38.6
北海道亜 麻まつり in当別	認知度	7.9	11.7	8.9	7.5	5.7
	意欲度	41.7	42.9	42.7	40.0	43.8
界隈性の ある市街 地	認知度	19.1	32.5	19.6	15.9	21.0
	意欲度	41.4	40.3	41.3	43.5	37.1
パークゴ ルフ場	認知度	15.9	20.8	18.5	12.3	18.6
	意欲度	37.2	36.4	35.9	39.3	34.3
あそ雪の 広場	認知度	6.4	10.4	7.8	5.6	4.8
	意欲度	36.1	40.3	41.3	31.2	38.6
石狩平原 スキー場	認知度	20.3	27.3	29.2	13.8	21.0
	意欲度	29.7	39.0	33.8	27.2	26.7
ゴルフ場	認知度	30.8	48.1	34.2	26.2	30.5
	意欲度	24.4	19.5	25.3	25.5	22.4
平均	認知度	17.3	26.2	19.9	14.8	16.2
	意欲度	48.7	50.1	48.6	48.5	48.6

注1：太枠（赤字）は地域ごとで最も高い訪問意欲度

⑧センターに対する要望

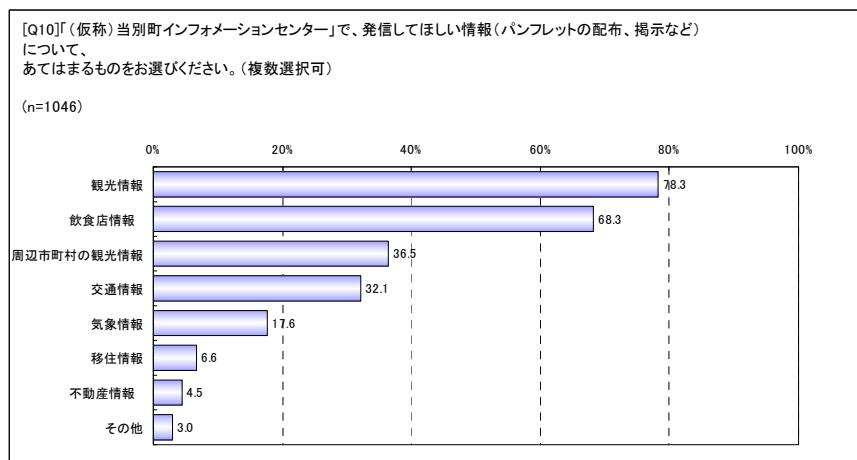
「新鮮野菜などの購入」や「特産品の購入」、「地元食材を使ったレストラン」が、5割以上と高くなっており、地元食材への期待度が高いことがわかる。無料休憩所やテイクアウトへの要望も高いことから、気軽に休むことができる機能も求められていると考えられる。また、当別町の情報や案内ガイドへの要望も高い。



センターに期待する機能

⑨センターで発信してほしい情報

発信してほしい情報としては、観光情報や飲食店情報が突出している。



センターで発信して欲しい情報

2-2 商圈人口分析

センター想定エリア周辺の人口

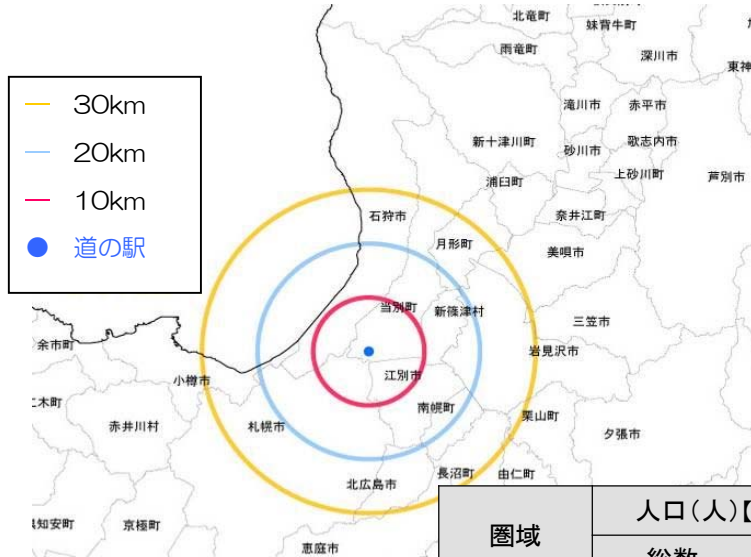


図 14 センター想定エリアから 30km 圏域

表 5 センター想定エリアから 30km 圏内の人口・世帯数

(出典) 住民基本台帳データ

圏域	人口(人)【平成 24 年 3 月 31 日現在】			世帯数 (世帯)
	総数	男性	女性	
10km圏内	366,364	174,590	191,774	180,102
20km圏内	1,691,267	796,088	895,179	855,933
30km圏内	2,528,250	1,187,723	1,340,527	1,143,114

センター想定エリアから概ね 30km 圏内の人が利用すると考えられ、その区域の人口については 250 万人を超える。

各圏域の市町村別人口を見ると、札幌市の占める割合が 70%以上となっている。それぞれ、10km 圏域では 73%、20km 圏域では 88%、30km 圏域では 83%が札幌市である。特に、当別町に隣接する北区・東区が占める割合が高く、10km 圏域では全体の 73%、20km 圏域では 31%となっている。

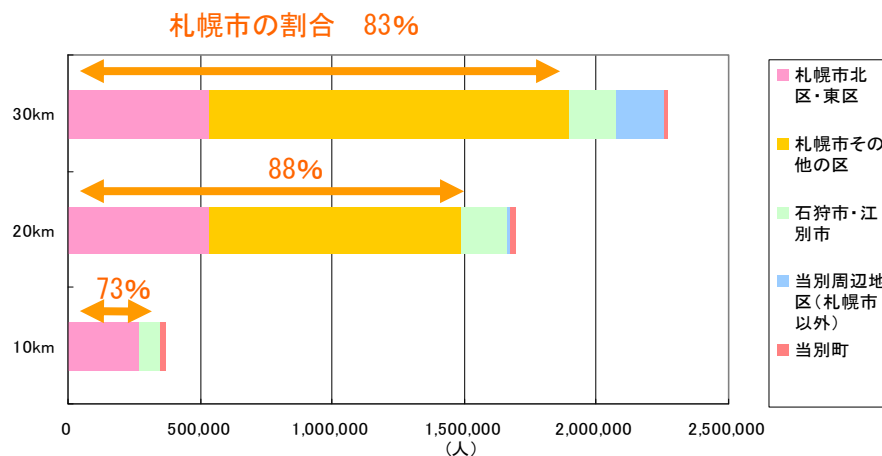


図 15 センター想定エリアから 30km 圏内の市町村別人口

※当別周辺地区（新篠津村、南幌町、北広島市、長沼町、岩見沢市、栗山町、恵庭市、由仁町）

(出典) 住民基本台帳データ（平成 24 年 3 月 31 日現在）

当別町道の駅基本構想

2-3 周辺市町村との往来交通量

平成22年度道路交通センサスの市町村※ODデータから当別町と周辺市町村との往来交通量をみると当別町内間移動の次に多いのは、札幌市との往来が最も多く、次いで江別市の順となっている。

表6 当別町内外へ移動する24時間交通量（平日・全車種・全目的）

出発市町村	目的地：当別町		目的市町村	出発地：当別町	
	台数	構成比（%）		台数	構成比（%）
当別町	15,526	63.3	当別町	15,526	63.4
札幌市	4,249	17.3	札幌市	3,890	15.9
江別市	2,149	8.8	江別市	2,342	9.6
石狩市	742	3.0	石狩市	791	3.2
新篠津村	483	2.0	新篠津村	545	2.2
月形町	344	1.4	月形町	344	1.4
岩見沢市	338	1.4	北広島市	223	0.9
北広島市	123	0.5	岩見沢市	170	0.7
千歳市	109	0.4	苫小牧市	80	0.3
由仁町	101	0.4	むかわ町	73	0.3
妹背牛町	55	0.2	恵庭市	72	0.3
南幌町	51	0.2	小樽市	65	0.3
小樽市	44	0.2	南幌町	51	0.2
栗山町	42	0.2	美唄市	48	0.2
恵庭市	37	0.2	栗山町	42	0.2
留萌市	32	0.1	雨竜町	42	0.2
苫小牧市	26	0.1	由仁町	37	0.2
旭川市	18	0.1	妹背牛町	37	0.2
余市町	11	0.0	千歳市	36	0.1
厚真町	9	0.0	留萌市	33	0.1
当麻町	8	0.0	当麻町	11	0.0
室蘭市	6	0.0	厚真町	9	0.0
愛別町	5	0.0	旭川市	6	0.0
仁木町	3	0.0	深川市	5	0.0
長沼町	3	0.0	滝川市	3	0.0
砂川市	1	0.0	長沼町	3	0.0
七飯町	1	0.0	帯広市	2	0.0
和寒町	1	0.0	奈井江町	1	0.0
合計	24,517	100.0	合計	24,487	100.0

※ODデータ 発地と着地の組み合わせごとの利用者数を表すデータ（出典）道路交通センサス（平成22年度）

当別町内に移動する目的別 24 時間交通量【図 1 6】は、平日のほうが休日の 1.5 倍の入込があり、70%が出勤登校・業務営業・帰宅となっている一方、休日には家事買物や社交娯楽・レクリエーションなどの割合が 60%近くになっている。

平日のみ調査を実施している平成 22 年度の道路交通センサスの結果を見ると、平成 17 年度の平日の交通量と比較して、15%程度減少しており、家事買物や社交娯楽・レクリエーションを目的とする移動が減少していることがわかる。

市町村別の交通量のうち、全体の入込数が最も多い他市町村は札幌市となっている。当別町内部での移動量は全体として札幌市からの移動量を上回っているが、家事買物について見ると、休日は札幌からの移動量が最も多くなっている。また、休日は隣接していない市町村からの社交娯楽・レクリエーションを目的とする移動も増加している。

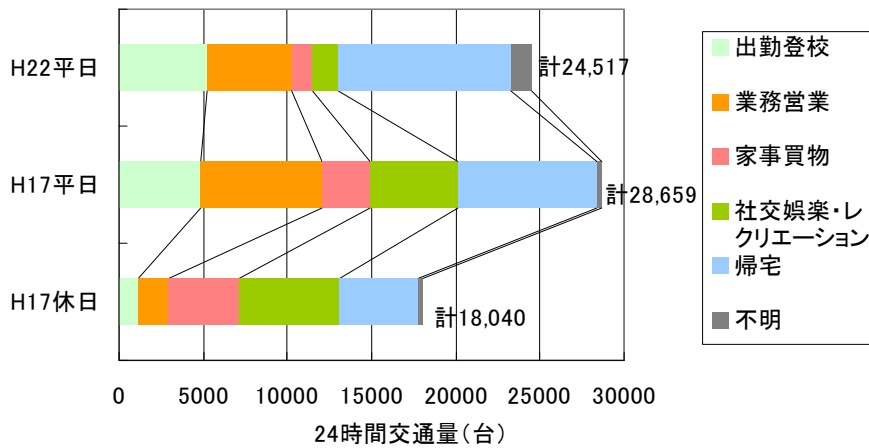


図 16 当別町を目的地とする移動目的別 24 時間交通量

(出典) 道路交通センサス (平成 17 年度、平成 22 年度)

表 7 当別町を目的地とする移動目的別 24 時間交通量 (当別町・札幌市)

		出勤登校	業務営業	家事買物	社交娯楽・レクリエーション	帰宅
(発地)						
休日	札幌	507	296	1,724	1,073	914
	当別	457	1,364	1,477	3,048	3,062
平日	札幌	1,645	1,493	633	964	2,774
	当別	2,541	4,003	1,850	3,441	4,666

(出典) 道路交通センサス (平成 17 年度)

○国道 337 号（当別バイパス）の交通量調査結果 その分析

北海道・全国平均と比較すると、当該区間は大型車の占める割合が高く、30～50%となっている。これは、当該区間が物流幹線道路（江別工業団地～石狩湾新港の最短ルートとなっている）としての役割を担っているためである。

また、札幌大橋付近（当別側、区間②・③）の混雑度が高くなっている。現在2車線の札幌大橋周辺では慢性的な交通混雑が発生している。

平日・休日の交通データを比較すると、平日の交通量の方が休日よりも平均2割程度多くなっている。また、国道 337 号と北海道道 112 号（札幌当別線）の交差点の交通量を見ると、337 号へ上り車両の 60%程度が流れていることが分かる。

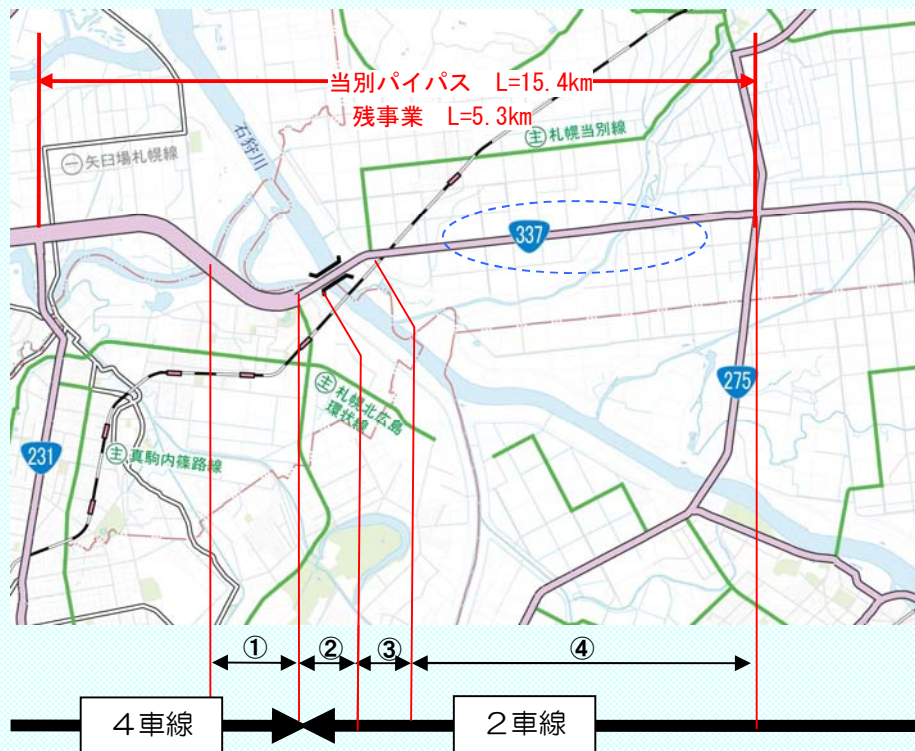


図17 センター計画地最寄地区間の道路交通データ

表 8 センター想定エリア最寄区間の道路の交通データ

区間	昼間 12 時間自動車類交通量			24 時間自動車類交通量			昼大 間型 12 車 時混 間入 率	混 雑 度
	上下合計			上下合計				
	小型 車	大型 車	合計	小型 車	大型 車	合計		
	(台)	(台)	(台)	(台)	(台)	(台)		
①	7,873	8,360	16,233	11,998	9,592	21,590	51.5	0.71
②	14,393	5,794	20,187	19,523	7,326	26,849	28.7	2.18
③	14,393	5,794	20,187	19,523	7,326	26,849	28.7	2.08
④	2,990	3,980	6,970	4,761	4,509	9,270	57.1	0.73

(台)

(出典) 道路交通センサス (平成 22 年度)

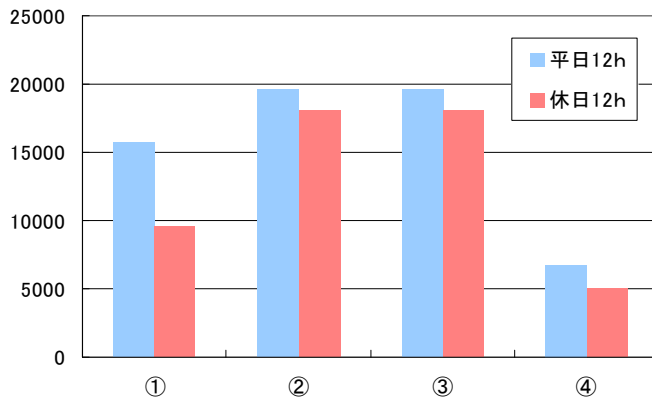


図 18 センター計画地最寄区間の道路の交通量 (平日・休日別)

(出典) 道路交通センサス (平成 17 年度)

現在、当別町と石狩市を結ぶ路線の交通混雑の緩和や道路交通の定時性、安全性の向上及び、物流効率化を目的とした、当別町蕨岱から石狩市生振に至る延長 15.4km のバイパス事業として、該当区間の 4 車線拡幅が計画されている。当該事業は、平成 24 年度末見込みで用地進捗率は 100%、事業進捗率は 88%となっている。

残事業となっている区間において、2 車線から 4 車線に拡幅された場合の交通状況の変化について整理する。整備後は、交通量は 1.4 倍となり、走行時間は 30%程度削減されると推計されている。

表 9 新設・改築道路 (残事業区間) における交通状況の変化

		整備なし	整備あり
交通量	台/日	16,200	22,700
走行時間	分	11.0	7.8
走行時間費用	億円/年	36.32	35.04

(推計時点 平成 42 年)

(出典) 北海道開発局事業審議委員会第 4 回資料 (平成 24 年度)



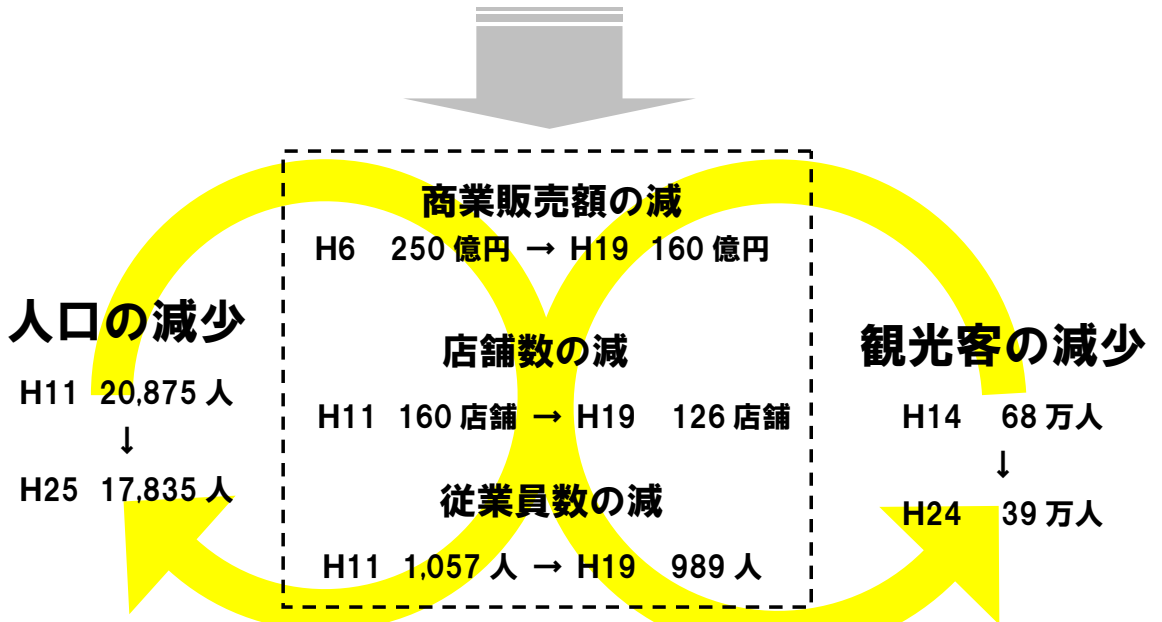
まとめ

当別町の概況、観光入込の実態、商圈人口分析、アンケート調査結果を整理すると以下のとおりである。

背景

- ・景気の低迷 ・少子高齢社会の到来
- ・大型ショッピングセンターの進出..など

現状・課題



いかに『人を呼び込む』か！

解消策

ランドマーク施設の整備

経済活動の
活発化

認知度アップ

交流人口の
拡大

消費者ニーズなど

- ・ 農産物を購入する際、鮮度を最優先
- ・ 自宅から直売所の距離と消費者行動の関係
 - 近い(自宅から車で 20 分以内) = 利用頻度 2~3 回 = 客単価は低い
 - 遠い(自宅から車で 30 分以上) = 利用頻度 1 回以下 = 客単価は高い
- ・ 直売所での購入金額は、500 円~1,000 円 (43.9%)
- ・ 施設機能ニーズ
 - 新鮮野菜、特産品、加工品の販売・レストラン・町の情報・無料休憩所・テイクアウト



機会(チャンス)

- ・ 最大消費地札幌に隣接！ (消費者は新鮮さを求めている！)
- ・ 国道 337 号の 4 車線化により交通量が増加！
- ・ 資源の認知度は低いですが、訪問意欲度は高い！
- ・ 特に女性が景観 (花、スウェーデン風) や食資源に注目！